

南アフリカ滞在**安全**の手引き



在南アフリカ共和国日本国大使館

2023年4月版

— 目 次 —

I 治安情勢

II 安全対策

- 1 防犯の基本的な心構え
- 2 最近の犯罪発生状況
 - (1) 最新の犯罪統計（南ア犯罪統計資料）
 - (2) 犯罪の特徴
 - (3) 在留邦人の被害状況
 - (4) 日本人の強盗被害事例
- 3 外出時及び自動車運転時の安全対策
- 4 住居及びホテルにおける安全対策
 - (1) 住居選定の留意事項
 - (2) 住居に必要な防犯設備～三つの防衛線
 - (3) 住居の安全対策
 - (4) ホテルにおける注意事項
- 5 犯罪（被害者・加害者）に巻き込まれた場合の対応

III テロ・誘拐対策

- 1 テロ情勢
- 2 一般的な心構え
- 3 具体的な対応策
 - (1) 爆弾テロ対策
 - (2) 誘拐対策

IV 緊急事態対処（必ず一読ください）

- 1 はじめに
- 2 平素の心構え・準備
- 3 緊急時の行動

- 添付資料
- 1 緊急時の連絡先一覧
 - 2 防衛線概略図
 - 3 事件・事故等届出書
 - 4 銃乱射事件及び爆弾テロ事件に遭遇した場合の注意事項
 - 5 主要都市の公式ホームページ及び地図

I 治安情勢

南アフリカ共和国（以下、南ア）は、１９９４年の全民族参加による総選挙で新政府が誕生してから約２９年が経過した現在でも、政治、経済、社会、治安等の各分野において数多くの課題を抱えています。特に治安問題に関しては、都市部のCBD（CENTRAL BUSINESS DISTRICT、旧市街地（基本的に）治安が悪いとされている）やタウンシップは世界的に見て一般犯罪が最も多い地域の一つであり、国内に違法銃器が氾濫しているため、銃器を所持している者の犯行が目立ち、殺人や強盗といった凶悪犯罪の多くで銃器が使用され、人命を軽視した犯罪が多く発生しています。

在留邦人が多く居住するプレトリア、ヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバン等の大都市部では、富裕層が居住する地域においても殺人、住居侵入強盗、事務所侵入強盗、路上強盗、追尾強盗、カージャック、車上ねらい、性犯罪、スリ、ひったくり等が頻発しており、在留邦人の皆様の脅威となっており、治安の改善が見られません。また２０２１年７月には、収監されたズマ前大統領の支援者と思われる者による抗議行動に端を発し、便乗した大勢の者らにより、クワズールーナタール、ハウテン両州各地において、大型ショッピングモール等での略奪、放火等が同時多発的に発生し、死傷者が多数発生しました。さらに２０２２年１０月には、在留邦人が多く居住するヨハネスブルグ・サントン地区においてテロが計画されているとの情報がありました。こういった暴動、抗議行動やテロはいつどこで発生するかわかりませんので、日頃より情報収集を行い、安全対策を講じてください。

こうした状況から、渡航情報の危険情報のレベルを見直し、２０２３年４月２７日付で

●ヨハネスブルグ市、ツワネ市（旧プレトリア）及びダーバン市の各CBD（CENTRAL BUSINESS DISTRICT）及びその周辺

レベル２：不要不急の渡航は止めてください（引き上げ）

●上記及びケープタウンを除くその他全土

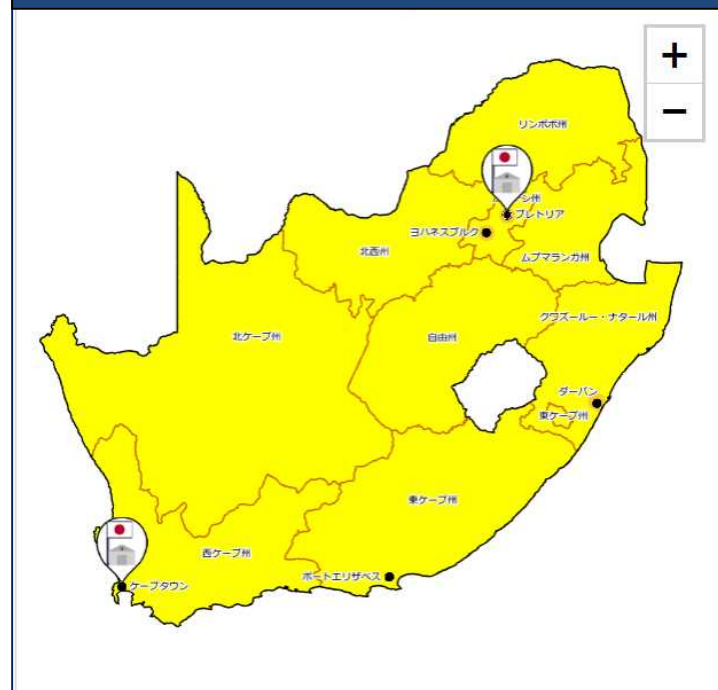
レベル１：十分注意してください（新規発出）

●ケープタウン

レベル１：十分注意してください（継続）

と変更いたしました。

● 南ア全土の渡航情報（危険情報）



※詳細情報は以下のリンクをご参照ください

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2023T039.html#ad-image-0

南ア国家警察が定期的に発表する犯罪統計によれば、殺人、殺人未遂、武装強盗等の凶悪な様態による強盗、ひったくり等の一般強盗など凶悪な犯罪や邦人にとって身近な犯罪の増加傾向が継続して

おり、治安面において油断できない状況です。また、ハウテン州、西ケープ州、クワズール・ナタール州といった邦人が多く居住する州を中心に、凶悪な犯罪の発生が引き続き報告されています。世界的に見ても、南アフリカは犯罪が最も多い国の一つです。

当地における凶悪犯罪は、拳銃やナイフといった凶器を使用したものが多く、抵抗する場合には危害を加えることを躊躇しません。したがって、在留邦人の皆様が南アでの生活を営む上で、ご本人、ご家族の安全を確保するための不断の努力や備えが欠かせません。安全対策は、最悪の事態を想定して講じ、定期的に訓練を行い、検証しながら実践することが大切です。このマニュアルは、当地での生活をより安全にお過ごしいただくために必要な防犯対策、テロ・誘拐対策や緊急事態発生時の行動についてまとめたものです。既実践されている内容も含まれているかもしれませんが、改めて確認するようお願いいたします。

海外においては、「自分の身は自分で守る」という心構えで常に警戒心を持ち、日頃から、万が一の場合に備えて準備を進めておくことが大切です。また、不幸にして犯罪被害に遭ったり、緊急事態に遭遇したりした場合には、冷静に落ち着いて対応することが被害を最小限に食い止めることにも繋がります。

このマニュアルが皆様の安全対策に少しでもお役に立てれば幸いです。

Ⅱ 安全対策

1 防犯の基本的な心構え

南アは日本と比較すると治安状況が非常に悪く、また、犯罪の取り締まりや捜査をする治安当局の能力や信頼性も期待できるものではありません。様々な面で日本国内とは勝手が異なりますので、「自分と自分の家族の安全は自分で守る」という強い心構えを持って安全対策に努めることが大切です。普段から正確で有効な情報を収集し、対策を立て、被害を未然に防止するとともに、万が一犯罪等の被害に遭った場合には、努めて冷静に対処するよう心がけてください。

2 最近の犯罪発生状況

(1) 最新の犯罪統計

南ア年間犯罪統計資料（2022 年度第 3 四半期：2022 年 10～2022 年 12 月）によれば、南ア国内における主要犯罪のうち、殺人が 7,555 件（1 日当たり 82.1 件）、殺人未遂が 7,016 件（1 日当たり 76.3 件）、一般住宅をターゲットとする侵入強盗が 6,256 件（1 日当たり 68.7 件）、同侵入窃盗が 42,648 件（1 日あたり 463.6 件）、店舗・事務所への屋内強盗が 4,938 件（1 日当たり 54.8 件）、強制性交を含む性犯罪が 15,545 件（1 日当たり 169 件）発生しています。また、誘拐が 4,124 件（1 日当たり 45.3 件）発生し、これは前年同期比+58.3%の増加で、継続的な増加傾向が見られ、大きな懸念となっております。

南アの人口が約 6,000 万人で日本の約半数であることを考えると、南アの治安状況が極めて劣悪であると判断でき、凶悪犯罪の発生件数及び発生率ともに、非常に高い水準で推移していると言えます。

また、犯罪統計に計上されていない犯罪（事件発生通報のみで、事件登録されていない場合がある。警察に通報していない場合がある。行方不明者の届け出が多数ある。）が相当数見込まれるため、実際の犯罪状況は犯罪統計が示すよりも、さらに悪いと言えます。

具体的な犯罪発生件数（2022 年第 3 四半期の統計）は次の頁のとおりです。

南アフリカ共和国犯罪発生件数

《2022.10～2022.12》

(単位: 件)

| 罪名 | | 2018.10～ 2018.12 | 2019.10 ～2019.12 | 2020.10 ～2020.12 | 2021.10 ～2021.12 | 2022.10 ～2022.12 | 前年同期比 | 一日当たりの 発生件数 |
|-----------------------|-----------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------|----------------|
| 重大犯罪 (届出) | 殺人 | 5,918 | 5,908 | 6,297 | 6,859 | 7,555 | 10.1% | 82.1 |
| | 性犯罪 | 15,130 | 15,325 | 15,595 | 14,188 | 15,545 | 9.6% | 169.0 |
| | 殺人未遂 | 5,060 | 5,014 | 5,452 | 5,645 | 7,016 | 24.3% | 76.3 |
| | 重傷害 | 50,583 | 49,428 | 50,124 | 46,513 | 50,582 | 8.7% | 549.8 |
| | 暴行 | 45,660 | 47,599 | 47,875 | 47,081 | 52,741 | 12.0% | 573.3 |
| | 一般強盗(ひったくり等) | 13,722 | 13,531 | 11,822 | 10,524 | 12,752 | 21.2% | 138.6 |
| | 凶悪な様態による強盗(凶器使用等) | 36,348 | 37,352 | 34,599 | 34,143 | 37,829 | 10.8% | 411.2 |
| | 凶悪犯罪 Contact Crimes | 172,421 | 174,157 | 171,764 | 164,953 | 184,020 | 11.6% | 2000.2 |
| | 放火 | 1,142 | 999 | 957 | 963 | 931 | -3.3% | 10.1 |
| | 器物損壊 | 31,132 | 29,598 | 30,032 | 30,658 | 31,256 | 2.0% | 339.7 |
| | 凶悪関連犯罪 Contact-Related Crimes | 32,274 | 30,597 | 30,989 | 31,621 | 32,187 | 1.8% | 349.9 |
| | 侵入窃盗(商店等非住居対象) | 18,124 | 17,179 | 15,550 | 14,408 | 16,286 | 13.0% | 177.0 |
| | 侵入窃盗(住居対象) | 56,088 | 51,737 | 42,834 | 39,692 | 42,648 | 7.4% | 463.6 |
| | 自動車盗及びバイク盗 | 12,115 | 11,772 | 10,099 | 9,776 | 9,451 | -3.3% | 102.7 |
| | 車上ねらい | 30,735 | 28,458 | 22,697 | 20,170 | 22,173 | 9.9% | 241.0 |
| | 家畜盗 | 8,948 | 8,437 | 7,854 | 7,404 | 7,446 | 0.6% | 80.9 |
| | 財産関連犯罪 Property-Related Crimes | 126,010 | 117,583 | 99,034 | 91,450 | 98,004 | 7.2% | 1065.3 |
| | その他の窃盗 | 77,833 | 71,509 | 62,195 | 64,214 | 71,147 | 10.8% | 773.3 |
| | 商業犯罪(詐欺等) | 20,659 | 21,725 | 23,428 | 27,155 | 28,545 | 5.1% | 310.3 |
| | 万引き | 14,933 | 14,533 | 12,308 | 10,451 | 12,888 | 23.3% | 140.1 |
| | その他重大犯罪 Other Serious Crimes | 113,425 | 107,767 | 97,931 | 101,820 | 112,580 | 10.6% | 1223.7 |
| | 届出による認知件数 (全17項目) | 444,130 | 430,104 | 399,718 | 389,844 | 426,791 | 9.5% | 4639.0 |
| 警察活動 | 銃器等不法所持 | 3,691 | 4,114 | 3,353 | 3,387 | 3,932 | 16.1% | 42.7 |
| | 薬物関連犯罪 | 34,939 | 41,520 | 37,546 | 36,053 | 42,504 | 17.9% | 462.0 |
| | 飲酒・薬物運転 | 21,907 | 27,011 | 16,259 | 13,181 | 10,948 | -16.9% | 119.0 |
| | 売春等 | 1,996 | 2,515 | 2,642 | 1,987 | 2,785 | 40.2% | 30.3 |
| | 警察活動による認知件数 | 62,533 | 75,160 | 59,800 | 54,608 | 60,169 | 10.2% | 654.0 |
| 【凶悪な様態による強盗のうち主たる手口別】 | | | | | | | | |
| カージャック | | 3,929 | 4,462 | 4,794 | 5,455 | 5,608 | 2.8% | 61.6 |
| トラックジャック | | 312 | 325 | 436 | 448 | 492 | 9.8% | 5.4 |
| 侵入強盗(住宅対象) | | 5,970 | 5,704 | 5,781 | 5,760 | 6,256 | 8.6% | 68.7 |
| 侵入強盗(商店等非住居対象) | | 5,314 | 5,426 | 5,052 | 5,138 | 4,983 | -3.0% | 54.8 |
| 計 | | 15,525 | 15,917 | 16,063 | 16,801 | 17,339 | 3.2% | 190.5 |

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|------|
| 誘拐 | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 2,605 | 4,124 | 58.3% | 45.3 |
|----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|------|

（２）地理的な犯罪傾向

当国では、プレトリア、ヨハネスブルグ、ダーバン、ケープタウンなどの都市の中心部（CBD（Central Business District）やセントラル地区）及びその周辺地域は、他の地域と比べて犯罪発生率が高く、町中の雰囲気も悪く体感治安は急激に悪化します。また、「タウンシップ」と呼ばれる貧困地区も同様の傾向が見られます。これらの地区には、立ち入らないことが最大の安全対策になります。また、立ち入る場合にも、信頼できる車両の手配、訪問先の案内人の確保等十分な準備が不可欠です。各主要都市の犯罪傾向は以下のとおりです。また、本手引きの２（５）「日本人の強盗・盗難被害事例」や、在南アフリカ大使館 HP の「主要都市治安情報」も参考にしてください。

以下の通り、駅、バスターミナル、タクシー乗り場、「セントラル地区」、「セントラル・ビジネス・ディストリクト（CBD）」など一見安全そうに見える場所には近寄らないなど十分に注意してください。

各地区の地図に関しては、末尾を参照してください。

（ア）プレトリア

公共交通機関を利用してプレトリアを訪問する際は、ハウトレインの利用が可能です。ただし、プレトリア駅周辺の治安が悪いため同駅の利用は避け、ハットフィールド駅を利用するようにしてください。また、信頼できる人に駅から/まで送迎してもらう等、駅から/までの移動手段を事前に確保してください。鉄道駅周辺に Uber は乗り入れせず、アプリ上で予約が完了してもキャンセルされる事象を聞いております。タクシーが駐留していますが、メーター制ではなく値段交渉によるもので外国人であれば高値をふっかけられる他、安全上の理由からも利用は避けてください。

ORタンボ国際空港からプレトリアへ赴く場合は、前述のハウトレインのほか、空港から目的地までの送迎サービス（空港シャトルサービス）、Uber の利用も可能です。長距離バスを利用した場合のプレトリア訪問は避けるようにしてください。

長距離バスの離発着は前述のプレトリア駅で、治安上の問題があります。また、長距離バスが走行中に武装強盗の襲撃を受けた事例もありますので、プレトリア発着に限らず、長距離バスの利用そのものを避けるようにしてください。

プレトリア CBD 及びその周辺（特に SUNNYSIDE 地区）においては、地元の人ですら徒歩移動中に武装強盗に襲われる、車で停車していたところカージャック被害に遭う等犯罪が多発しているため、不用意な立ち入りは控えてください。同地域に所在する官公庁に訪問する必要がある場合、信頼できる人による訪問先の建物内まで/からの送迎（車利用）を頼むようにしてください。

また、官公庁周辺、ユニオンビル周辺では抗議行動が頻繁に発生しています。当地の抗議行動の特徴として、平穏に進行しても些細なことから激化することがあるため、抗議行動に遭遇した場合はその場から立ち去ってください。この様な理由から、CBD 及び周辺地域への立ち入りは避けてください。

（イ）ヨハネスブルグ

ヨハネスブルグでは、CBD 内のパークステーション（電車や長距離バスのターミナル駅）構内から徒歩で移動中の邦人旅行者が首締め強盗に遭ったケースが複数件報告されています。また、ヨハネスブルグの CBD 及び隣接するヒルブロウ地区、ベリア（Berea）地区は凶悪犯罪や薬物関連事案の極めて発生率の高い地域ですので、立ち入りは避けてください。CBD から西方に位置するソ

ウェト地区は、ネルソンマンデラ国立博物館等の観光場所がありますが、犯罪やデモの多発地域です。博物館等を訪れる場合は、信頼できるツアー等に参加し、決して1人歩きはしないでください。邦人が多く居住するサントン地区の東方に隣接するアレクサンドラ地区も同様に凶悪犯罪の発生率の高い地域ですので、立ち入りはしないでください。

また、南ア各地にある長距離バスのターミナル駅は、全般的に治安が悪い傾向がありますが、前述のパークステーションを利用した邦人の強盗被害が顕著ですので、同駅の利用は避けてください。

（ウ）ダーバン

高級リゾート地を有し、特にシーズン中は多くの観光客で賑わうダーバンでは、CBDを中心に、多くの犯罪が発生しています。車の窓を壊し、車内から物を盗む「スマッシュ・アンド・グラブ」や、バイクを利用したひったくりなどを始め、車の故障で立ち往生をした者を狙う手口も多く見受けられます。また、夜間における一人歩きは、カージャックや武装強盗の被害に遭うおそれが高いため、厳に慎まなければなりません。

集団での行動を心掛け、多額の現金を持ち歩かないようにするとともに、車が故障しないように平素からメンテナンスしておくことも重要です。

また、CBD以外にも、サウスビーチ付近においても犯罪が多発しておりますので、近付かないようにして下さい。

（エ）ケープタウン

南アフリカ国内またアフリカ大陸全土でも有数の観光地であるケープタウンは、邦人含め多くの観光客が訪れ賑わいますが、特にケープタウン・セントラルでは観光客等の短期渡航者を狙った犯罪が横行しており、犯罪発生件数は国内最多となっています。中でも、ATM 詐欺（窃盗）、窃盗、強盗、車上狙いは多くの邦人が被害に遭っており、何時・どこでも発生しうる状況です。特にバスターミナルやタクシーが集中しているケープタウンステーション周辺、飲食店やナイトクラブが並ぶロングストリート、現地住民の住宅街でもあるボカープ（Bo-Kaap）エリア周辺は注意が必要です。

ケープタウン・セントラル以外ではギャングが根城にする地域やタウンシップも多く存在し、特に幹線道路 N2 より南、M7 より東のエリア、またケープタウン国際空港周辺のインダストリアルエリア等での犯罪が目立ちます。これらのエリアでは銃器を使用した無差別な殺人事件等も頻発し、CBD とは犯罪の傾向が異なります。いかなる理由があっても立ち入らないで下さい。希にガイド付きタウンシップツアーに訪れる邦人が見られますが、ツアー用の車両が襲撃される事件も発生しており安全は全く保証できません。

なお、中・低所得者層の主要な移動手段であるタクシー（主に白色の大型バンで南ア国旗カラーが流線型に施された乗り合いバス）では、運行ルートを巡ったタクシー団体同士の抗争に関連する銃撃事件が時折発生しています。また、移動手段としては鉄道も運行されていますが、鉄道車両内での強盗事件が多く報告されています。いずれも使用することは控えて下さい。

【補足：ケープタウン・セントラルの路上パーキング】

ケープタウンでの移動手段として自家用車やレンタカーがあれば最も安心出来ますが、プレトリアやヨハネスブルグとは異なる路上パーキング制度があります。

- ・路上に設けられた駐車枠内に、定められた時間帯に有料で駐車可能（駐車チケット制）。
- ・市が委託した Parking Marshall と呼ばれる係員が管理。
（オレンジ色のベストや帽子を着用。但し、委託先により名称、服装等が変更される可能性あり）
- ・駐車開始時にチケットを発行し、立ち去る際に駐車時間に応じた駐車代金を支払う。
- ・料金は地域により若干異なり、案内看板に記載されている。
- ・支払いは、現金、アプリ、クレジット/デビットカードが可能。

以上のように便利なパーキングですが、日曜日や夜間等の駐車可能時間外は上記係員がおらず、偽係員が出没しチップを求めたり、料金支払うように ATM 機に誘導し詐欺や窃盗を敢行するケースがあります。利用する際は、駐車可能な時間であるか、市から委託を受けた係員が対応しているかなど十分注意してください。

（３）犯罪の特徴

●凶悪犯罪の多発

殺人の一番の原因は口論である点にみられるように、ささいなことであっても、人を殺傷することに抵抗がありません。

●銃器使用犯罪の常態化

合法的銃器及び違法銃器が社会に蔓延しており多くの犯罪で銃器が使用されています。相手を脅すために銃をつきつける場合や、いきなり発砲して襲撃するケースもあります。

万が一、犯罪被害に遭遇した場合は、ひったくり等比較的軽微な犯罪であっても無抵抗を貫くことが極めて大切です。実際に、プレトリア市内の人気の飲食店街において、店先でスマートフォンをひたたくられそうになり、被害者が抵抗したところ、数十発銃撃された事件が発生しました。

●異常性犯罪の多発

強制的性交等の性犯罪については、発生件数そのものが多いことは前述のとおりですが、性犯罪被害者に年齢や性別は関係なく、新生児から高齢者まで性犯罪被害にあうケースがあります。ジェンダーに基づいた犯罪やフェミサイドも問題となっております。

●組織犯罪の多発

カージャック、自動車盗、現金輸送車強盗、誘拐等凶悪犯罪の多くが組織的な犯行で、国際的な犯罪シンジケートが関与しているとも言われています。

●犯罪の広域化

犯罪者は、南ア国内のみならず隣国を行き来して犯行を敢行するケースが多く見られています。犯罪の広域化、警察の捜査能力の低下と相まって防犯対策を困難にし、事件検挙を遅らせる要因となっています。

【近年多発している犯罪】

●カージャック（当地ではH i j a c kと呼ばれる）

昼夜問わず、カージャックが多発しています。車そのものを標的にしたケースの他、乗車している人ごと車を奪い（拉致）、脅されてA T Mで現金を出金させられる、電子的に送金さ

せられるなど他の犯罪に発展するケースが目立ちます。賊は銃器を所持しており、抵抗する者に発砲することが多くあります。

●追尾強盗

追尾強盗とは、空港、銀行、買い物先等の出先から車で帰宅する際、途中の信号や自宅前でゲートが開くのを待っている間に、追尾してきた賊が車で後方をふさぎ、ゲートと賊の車の間で身動きがとれなくなっている被害者を襲撃して金品を奪う手口です。銃器を突きつけて脅すケースが多く、プレトリア市内の自宅前で邦人が被害にあった際、ゲートが開いたタイミングで敷地内に逃げ込もうとしたところ、賊に発砲された事件があります。

●スマートフォンを標的とした犯罪の多発

スマートフォンを標的にした犯罪が多発しています。ひったくりや置き引きのみならず、銃器を使用して脅し奪い取る凶悪な武装強盗事件也多発しており、上記のとおり抵抗した際に銃撃された事件も発生しております。

スマートフォンを見える形で携行しない、飲食店のテーブルに置かない（特にオープンテラス席）、公共の場で使用しない（致し方なく利用する場合は、その場に応じて狙われにくい適切な場所へ移動し、周囲の状況に警戒しつつ利用する）等の安全対策が重要です。

また、Uber を依頼した際、到着状況を確認しようとスマートフォンを取り出したところひったくられるケースが散見されますので注意が必要です。

●ATM関連犯罪の増加

ATM利用時に、利用方法を教示する等様々な口実で被害者に近寄り、指示通りにATMを操作するよう誘導している間に暗証番号を盗み見、カードをスリ取り、直後に別のATMで不正出金する等の事件が増加しています。

●誘拐

身代金目的は全体の約3%（2022年第3四半期）。カージャック（上記参照）、強盗関連、性犯罪関連の順に多い。実業家等を標的にした高額身代金目的の誘拐、一般家庭が支払い可能な額の身代金要求等、標的とする家庭の経済状況をよく把握しているため、平素から、経済状況や行動を不用意に周囲に知られないよう注意する必要があります。

スーパーマーケット等買い物中、保護者等が商品の品定め等している間に、買い物カートに乗せている乳幼児を抱きかかえて連れ去る事件が発生しています。子供をつれている場合は、決して子供から目を離さないでください。

（４）在留邦人の被害状況

在留邦人が多く居住しているヨハネスブルグ、プレトリア、ケープタウン、ダーバン等の都市部の特に中心部や郊外のタウンシップにおける治安状況は悪く、ハウテン州（ヨハネスブルグ、プレトリアが所在）、西ケープ州（ケープタウンが所在）、クワズールー・ナタール州（ダーバンが所在）の3州で発生する殺人事件、殺人未遂、強盗の件数を合わせると全国の50%以上を占めています。また、在留邦人は、この3州内におよそ9割が居住しているため、非常に被害に遭いやすい環境で生活をしていることがわかります。

日本人が南ア国内において犯罪の被害者となった事件は、日本大使館及びケープタウン領事事務所として認知しただけでも、昨年1年間で約32件発生しています。昨年の被害の内訳

は、凶悪強盗被害 6 件（路上強盗 8 件等）、窃盗被害 8 件（車上ねらい 4 件、自動車盗 1 件、ATM 関連 4 件）、その他、警察官による不正取り締まりや住居侵入窃盗等も発生しておりますので、引き続き注意が必要です。

（５）日本人の強盗・盗難被害事例

| |
|--|
| <p>《事例①》武装強盗未遂</p> <p>●ヨハネスブルグ・サントン地区の駐車場入口付近で、邦人の車に追突した車から銃を携行した複数の男が降りてきたが、襲撃前の短時間の間に車を離れたため未遂に終わった。</p> <p>●ヨハネスブルグ・ストライドムパーク地区において、邦人が高速道路を降りて信号待ちのため停車中、運転席側に近づいてきた男に拳銃を向けられ窓を開けるよう要求され窓を開けたところ、拳銃で顔面を殴られた。銃口が外れた隙に、アクセルを踏み込んでその場を逃れた。邦人は口内に傷を負った。</p> |
| <p>《事例②》銃撃追尾強盗未遂・プレトリア</p> <p>車で帰宅し、自宅コンパウンド前でゲートが開くのを待っていたところ、後方を車で塞がれ、車から降りてきた男に車の窓越しに拳銃を突きつけられた。ゲートが開いたので、敷地内に逃げ込んだが、その際、発砲された（幸い邦人に怪我はなく車の損傷のみ）。賊は、警備員に対しても複数回発砲して逃走した。カージャック目的とみられる。</p> |
| <p>《事例③》追尾強盗・ヨハネスブルグ</p> <p>日本から帰国後、OR タンボ空港から車にて帰宅し、自宅（ゲート警備員有のクラスター住宅）敷地内に入ったところ、空港から追尾してきたと思われる強盗犯の車がゲートを突破して進入、5 人組の男から銃器で脅され、スーツケース、手持ちバッグ、着用していた宝飾品を強奪された。</p> |
| <p>《事例④》偽警察官強盗、拉致等・ヨハネスブルグ郊外</p> <p>高速道路（N4）にて、警察官らしき者に停車を求められたため停車したところ、脅されて賊の車に押し込められて連れ回され、キャッシュカード等の暗証番号を教えるよう強要され、方々の ATM で賊が不正出金し、その後解放された。</p> |
| <p>《事例⑤》武装強盗・北ケープ州 Kuruman</p> <p>邦人 1 名とその友人 1 名が、Kuruman 所在のショッピングモールで買い物を終え、モール正面にあるタクシーターミナルを徒歩移動中、男にナイフを突きつけられ、複数の男らに地面に押さえつけられ暴行を受けて腕時計、リュック等を強奪された。</p> |
| <p>《事例⑥》ヨハネスブルグ CBD・パークステーション周辺の強盗</p> <p>●パークステーション長距離バスターミナル外側のミニバス乗場へ向かう途中、5～6 人の男に囲まれ、前に抱えていたリュック（現金 5 万円、300 ユーロ、450 ドル、3000 ランド、クレジットカード、パスポート、タブレット PC 等が在中）を奪われた。また、首にさげていたカメラも引きちぎられて奪われた。被疑者は被害者が倒れているスキに逃走した。</p> <p>●邦人旅行者 2 名が、パークステーション付近で迎えの車（Uber）を待っていたところ、5～6 名の男に囲まれ、手に所持していたスマートフォンや鞆（旅券等在中）を強奪された。邦人 1 名はもみ合った際に手に擦過傷等を負った。</p> <p>●邦人旅行者が、パークステーション周辺にあるカールトンセンター付近を徒歩で移動中、突</p> |

| |
|--|
| <p>然 3～4 人組の男に羽交い締めになされて気絶し、その間に所持品（鞆、旅券、カメラ、現金等）を強奪され、首等に打撲を負った。</p> <p>●邦人旅行者 2 名が、パークステーション周辺の路上を散策中、突然 4 人組の男に襲われ首を絞められて気絶、もう 1 人は意識朦朧の状態にされ、その間に所持品（旅券、スマートフォン、現金等）を強奪され、邦人 1 名は首に打撲を負った。</p> |
| <p>《事例⑦》強盗（スマートフォン標的）・ヨハネスブルグ</p> <p>邦人旅行者が、ヨハネスブルグ市内観光バス（赤い 2 階建てバス）からローズバンクの停留所で下車し、ホテル前で U b e r を待っていたところ、乗車直前に所持していたスマートフォンを強奪された。スマートフォンを紐でズボンに結束していたが、後方より強く引っ張られ、顔面を殴られて奪われた。</p> |
| <p>《事例⑧》ひったくり（スマートフォン標的）・ヨハネスブルグ</p> <p>●帰宅のため Uber を手配し、飲食店前路上にて待っていたところ、背後から男に手に所持していたスマートフォンを奪われた。</p> <p>●帰宅のため Uber を手配し、車が到着した様であったので飲食店から路上に出たものの、手配した車が見当たらなかったため、スマートフォンを取り出して車の位置を確認しようとしたところ、男に奪われた。</p> |
| <p>《事例⑨》住宅侵入窃盗（忍び込み）</p> <p>●ヨハネスブルグ</p> <p>深夜、就寝中、被疑者は窓に設置された鉄格子をこじ開けて、被害者宅に侵入し、パソコンや財布が入った鞆を盗んだ。財布については、中に入っていたカード等は庭に捨てられ、現金のみ盗まれた。被害者宅は独立家屋で 4 辺の外周塀の内、3 辺はエレクトリックフェンスが設置されているが、もう 1 辺については隣家と接しており障害物は何もなく、コンクリートに生け垣がくっついたようなもので、一部隙間があり、そこから侵入されたと推測される。隣家に侵入した経路は不明。また、警備会社に繋がるアラームシステムも設置されていたが、その日はたまたまスイッチを入れていなかったため作動しなかった。</p> <p>●ダーバン</p> <p>深夜、就寝中、邦人宅（コンパウンド内）に何者かが侵入し、室内に置いていたパソコン、現金等が盗まれた。賊は、コンパウンド外壁上の電気フェンスの欠損箇所から敷地内に侵入し、無施錠又は鍵のかかりの甘かった窓から室内に入って犯行に及んだと思われる。アラームシステムは導入していなかった。</p> |
| <p>《事例⑩》スリ・ダーバン</p> <p>夕方、邦人が、ダーバン・Umhlanga Rocks 地区の混み合った場所を徒歩移動中、見知らぬ男性と軽く肩が触れ、その男性に「ごめん、大丈夫か」等声をかけられながらボディータッチをされたあと、ズボン前ポケットに収納していたスマートフォンが盗まれてなくなっていることに気がついた。この際にスリとられた、ぶつかった男性が気を引いている間に共犯者がスリとった可能性が考えられる。</p> |
| <p>《事例⑪》A T M 詐欺・窃盗関連事件</p> <p>●ヨハネスブルグ</p> <p>サントン地区の Rivonia Village Shopping Centre の ATM 利用中、被害者は 2 人組の男に声</p> |

をかけられ、操作方法を教えるなどと親切を装い ATM の画面に触れようとしたため、触るなど反抗したところ、その 2 人組は暴言を吐きながら、隣の ATM に移動した。その後、被害者が取引を終えてその場を立ち去ろうとしたところ、別の 3 人組の男が現れて、被害者が利用したことで ATM が使えなくなったと言いがかりをつけてきた。被害者は、5 人の男に取り囲まれ逃げ場を失い、カードをすり替えられ、暗証番号を入力させられた。その直後に別の ATM で 5、000 ランドを引き落とされた。

●ダーバン・Umlanga Ridge

商業施設内の ATM 機で現金を出金しようとしたところ、見知らぬ男が近づいてきて「今日は日曜日で操作の仕方が違うから教えてやる」等言いながら ATM 機の操作を行い、機械からキャッシュカードが出てきたところ、これを盗み逃走した。そのわずか数分後に、約 R20,000 不正利用された。

●ケープタウン

旅行中の邦人が、喫茶店前の駐車スペース（駐車チケット制）に駐車しようとしたところ、白 Y シャツを着た男（喫茶店の店員と誤認）に、向かいの店舗で駐車チケットを購入するよう案内されたため、当該店舗に赴いたところ、先の男と同じような服装の男が待ち構えており、ATM 機にて駐車チケットを支払うように誘導された。指示通りにカードをタップ（機械にかざす）したものの反応がなかったため、カードを挿入して暗証番号を打ち込んだがエラーが表示され、何回か同じ操作を行っていたところ、ATM 機内にカードが取り込まれてしまった。

男に、別のカードを挿入すれば前のカードが出てくると言われたため、2 枚目のカードを挿入して同様の操作を行ったところ、同じくカードが ATM 機に取り込まれてしまった。

気がつくと、案内と操作誘導を行った男 2 名は立ち去っており、その後、不正出金されていることが判明した。

●ケープタウン

Adderley のバス停に向かう途中、バス会社スタッフらしき制服を着た男に、市内で大規模な火災が発生した影響で、MyCiti バスのカードシステムが故障しているため、乗車には特別なスリップの発行が必要であるとして、地下の券売機まで誘導された。その後、バスカードを購入したクレジットカードの挿入が必要だと言われ、指示通りカードを挿入し暗証番号の入力を行うも、カードがはき出され最初の画面に戻ることを繰り返した。何度か試しているうちに、警備員と名乗る制服を着た男が近づき話しかけてきたが、その間にカードを抜き取られ、数分内にキャッシングにより約 9 万円前後の金額が引き出された。

《事例⑫》スマッシュアンドグラブ

●ケープタウン

ケープタウン市内から空港へ向かう途中、ナビゲーションの案内に従い、ケープタウン空港出口の 1 つ前の出口から降りて信号待ちをしていたところ、助手席側の窓を襲われ、乗車していた者のひざに置いていたジャケットを奪われた。

●ヨハネスブルグ

夕方、邦人が、ヨハネスブルグ・サニングヒル地区にて赤信号で停車中、助手席の窓ガラスをノックされた後同ガラスを割られ、運転席と助手席の間で充電中であったスマートフォンと充電ケーブルを奪われた。

●ダーバン

夕方、邦人2名が、ダーバン・グレイビル地区102号線にて渋滞により停車中、4人組の男らが車の窓ガラスを破壊し、割れた窓から車内に手を差し入れて後部ドアを解錠して車内に乗り込み、助手席足元の鞆を奪おうとした。邦人が防除したところ、別の男がスマートフォンを強奪した。付近にいた者が声を上げて棒で賊を威嚇し、周囲に人が集まりだしたので賊は逃亡した。邦人2名は割れたガラスの破片でそれぞれ指を負傷した。

《事例②》汚職警察官・ヨハネスブルグ

3人のうち1人の警察官に車をわきに寄せるよう指示され、窓を数センチ開けて話しを聞こうとしたところ、全開にするか、外に出るか行うよう指示された（結局、窓を数センチ更に開けた）。その後、運転免許証やパスポートの提示を求められ、従い、特段問題はなかったが、Traffic Number Certificateの提示を求められた際、コピーしか持っておらず、それを見せたところ、3000ランドの罰金をその場で求められた。その後、大使館に電話をかけて、同警察官と話をしたところ、クリスマスだから見逃してやると言って解放された。

《事例⑭》窃盗・プレトリア

車の窓を開けたまま運転していたところ、信号停車中、物乞い風の男が手を差し入れてきて、フロントガラスに貼り付け、カーナビ代わりに利用していたスマートフォンを奪われた。

3 外出時及び自動車運転時の安全対策

（1）外出時の安全対策

犯罪者からは日本人は「金を持っている外国人」と映っており、狙いやすい標的であるとされています。犯罪者が銃器を所持しているケースも多く、抵抗された場合には、危害を加える事をいとわないため、被害に遭った場合は抵抗せず、命を第一に守る行動が必要です。

- 危険だと言われている場所には絶対に近づかない。
- 夜間の外出は必要最小限に止める。
- 移動は原則として車を利用する。
- 徒歩移動が可能な地域においても、昼夜を問わず、一人歩きは絶対にしない。人通りの少ない道、暗がりを通らない。
- 外出時は、高級ブランド品、派手（華美）な服装等目目を引く服飾を用いない。
- スマートフォンを見える形で携行しない、飲食店のテーブルの上に置かない、公共の場所で使用しない。どうしても使用する必要がある場合は、その場に応じて狙われにくい場所に移動し、周囲の状況に警戒しつつ使用する。
- 貴重品や多額の現金を持ち歩かない。
- ハンドバックは使用しない。ショルダーバックをたすき掛けにし、体の前で所持する。車道側に持たない。
- 物売り、たかり、話しかけてくる見ず知らずの者には特に注意する。
- 自動車の車内の見える場所に荷物を置かず、トランクルームに荷物を入れる。自宅等出発点で荷物をトランクルームに収納しておく。外出先で荷物を収納する場合は、周囲を警戒しつつ目立たないように入れる。

（２）自動車運転時の安全対策

当地では、日本と異なり、気軽に利用できる電車やバス、タクシー等の公共交通機関がなく、また、治安上問題があるため、自家用車の所持が不可欠となっています。しかし、ポットホール（道路の陥没）が各所に見られ運転が困難な道路も多く存在します。また、速度超過や飲酒運転、無理な追い越しなど悪質運転が多く、交通死亡事故の発生が数多く報道される等、一般犯罪被害と同様に、身を守る上で十分な対策が必要となります。

ア 自動車関連犯罪

当地では、車に関連した様々な犯罪があります。

カージャック

カージャック事件が多発しています。さらに、犯罪シンジケートが暗躍しており、従来以上に組織的、巧妙かつ短時間に犯行が行われています。特にハウテン州ではカージャックが頻発しており、一般道のみならず通勤時間帯の渋滞した高速道路でも発生しています。また、カージャック犯人のほぼ１００％が拳銃を所持していると考え、万一襲われた時には、自分と乗員の命を守ること第一に対応してください。

追尾強盗

追尾強盗とは、空港、銀行、買い物先等の出先から車で帰宅する際、途中の信号や自宅前でゲートが開くのを待っている間に、追尾してきた賊が車で後方をふさぎ、ゲートと賊の車の間で身動きがとれなくなっている被害者を襲撃して金品を奪う手口で大変凶悪です。後述の対策をとってください。

武装強盗

買い物等を終え車に乗り込んだ後は、すぐに車のロックを手動でかけてください。車に乗り込んだ後、外からドアを開けられ、拳銃を突きつけられて金品を奪われる武装強盗が発生しています。また、車の乗降時に周囲に不審者/車がないか十分に観察してください。

スマッシュ・アンド・グラブ

信号待ちや渋滞で停車中の車の窓ガラスを割り、座席等に置いてある荷物をひったくる“Smash and Grab”という窃盗も頻発しています。荷物は出発前にトランクやラゲッジスペースに収納し、車内の見えるところには絶対に置かないでください。特に運転中のスマートフォンの使用や外から見える場所に置く、充電する行為は標的となります。この手口の犯罪の多発地点は通行しないことはもちろんですが、交差点や高速道路の出入口では、なるべく止まらないような工夫した（赤信号無視ではなく、赤信号にかからないような速度調整した）運転も必要です。

車上ねらい

・ジャミング

リモコンキーでロックしたと思っても、実際にはロックされておらず、車両を離れている間に車内に置いた貴重品の入った鞆等が奪われる事件が発生しています。これはジャミングと呼ばれるリモコンキーの周波数帯域を無効にする手口です。ゲートのリモコンキーで実行可能ですので、誰でも犯行が可能です。

・ドアを開放

リモコンキーでドアをロックする前に運転手等の死角のドアを少し開放することにより、

そのドアあるいは全ドアにロックがかからない仕組みを利用した手口も横行しています。

リモコンキーでロックしても必ず手でロックされているか確認するとともに、短時間でも車両を離れる場合には、旅券はもとより、P C、携帯電話等貴重品・身の回りの品を車内に残さないようにすることが大切です。

自動車盗

・リレーアタック

スマートキー所有者に近づいて電波を拾い、車の近くにいる仲間まで電波を送信、正規のキーが近くにあるように車に誤信させロック解除やエンジン始動を行うリレーアタックと呼ばれる手口があります。スマートキーの一時無効化、電波を遮るポーチにキーを収納する等の対策があります。

・CANインベーター

専用の機器を用いて外部から車のシステムに不正に侵入し、ドアの解錠、エンジンの始動等行い車を盗む手口です。この対策を行っているメーカーもありますので、ディーラー等に相談して必要な措置を講じる、タイヤ/ハンドルロックを導入するのも一案です。

路上駐車中に被害に遭う例が一番多いと言われており、警備員が配置されている駐車場、アクセスコントロールが実施されている駐車場等駐車場所の選定が重要になります。

《走行前の準備》

- 日頃から点検整備に努め、故障して立ち往生することのないようにする。
- タイヤの空気圧はやや高めに設定する（ポットホールの上を走行した場合のパンクリスク軽減）
- 燃料は常にタンクの半分以上を心がける。
- セキュリティ・フィルム（スマッシュアンドグラブ対策フィルム）を貼付する（車内の透視防止効果の他、ガラスの飛散防止効果を高めることができる）。
- 目的地までの経路は事前に調べる。タウンシップ、治安の悪い地域を走行しないか確認する。地図アプリやナビばかりに頼ると、最短距離（時間）の経路を案内するので要注意。
- 長距離旅行に出かける場合、休憩場所、ガソリンスタンド等の場所を調べ、運転計画を立てる。夜間の走行を避け、無理のない計画とする。

《走行中の防犯対策》

- ドアは乗り込んだ直度に手動で必ずロックする、窓ガラスは閉める（信号待ちの時でも）。
- 交通量が比較的多い、明るい道を選ぶ。
- 前後、左右に不審な車がないか周囲を常に警戒する。
- 信号停車中は前車との間隔を少なくとも車1台分開けておき、直ぐに発進して左右に逃げられるようにしておく。目安は前の車の後輪タイヤが全部見える位置。
- 夜間、特に女性一人のドライブは避ける。
- ヒッチハイカー（たとえ子供を抱いた女性であっても）には関わらない。
- 助手席や後部座席等、外から見える所に物は置かない。
- 絶えず不審な車の尾行がないか背後に気を付ける。特に、ショッピングモール等から自宅

に帰る場合、後続車が付いていれば一旦自宅を通り過ぎて、後続車がいなくなったのを確認してから自宅に戻る。

- 交差点手前では、なるべく停車することなく通過できるように速度調節して、赤信号による停車を避けるような運転を心掛ける。
- 検問は、窓ガラスを全開にすることなく、免許証等の出し入れできる最小限とし、検問の目的、相手の氏名、所属等を質問するようにする。
- 車両運転中に、背後から軽く接触してきた車に対しては、強盗の可能性を念頭に置き、直ちに車外に出ず、いつでも発進できる状態のまま、バックミラーなどで観察する。
- スマートフォンなどを車内で充電しない（走行中の犯罪被害のみならず、車内置き忘れにより車上ねらいの被害もあり）。

《追尾強盗対策》

《自宅に進入する際の注意点》

- 車の運転中は、周囲の状況をよく観察する。バックミラー等を活用し、特に後続車に注意。
- 自宅到着約5分前からは、特に追尾の車がないか、自宅周辺に不審車（者）がいらないか警戒する。
- 自宅ゲートに車を垂直に（正面）停車してゲートが開くのを待っていると、その間に後方を賊の車で塞がれ身動きがとれない状態に陥り襲撃される可能性が高いので、以下の要領を推奨。

★リモコン操作によりゲートを開閉する住宅の場合★

- ・自宅前に到着したら、逃げ道を確保するため、道路に並行に車を停車し、リモコンでゲートを開放する。

- ・ゲートが開いたら直ちに敷地内に進入し、後続車が敷地に入れない位置で停車する。

※バックギアに入れていると賊が混乱するので良いと言われている。

- ・リモコンでゲートを閉鎖する。※自動でゲートが閉鎖する機能があっても、必ず手動で速やかに閉鎖する。

★暗証番号等ゲートに垂直に停車せざるを得ない場合★

- ・自宅ゲート手前で停車し、後方に不審車（車）がいらないかしばらく様子を見る。

※後続車が停車した場合、追尾の可能性あり。

- ・以下は上記の手順と同じ。

《追尾されているかの確認方法》

- 後続車の簡単な特徴を覚える（色、メーカー等）夜間の場合はヘッドライトの形。
- 左（右）に曲がり、ずっと同じ動きをしてついて来る場合は追尾の可能性あり（3回以上が目安）
- 左（右）折の指示器を出し、曲がると見せかけて直進した際、後続車も同じ動きをした場合は追尾の可能性大。
- ラウンドアバウトを利用してリターンしてみる。後続車も同じ動きをした場合は追尾の可能性大。

《追尾されている際の対応方法》

- 自宅を一旦通過する。慌てて自宅に駆け込まない。
 - 冷静に普段通りの運転をする。
- ※急発進、後方を振り返ってみる等しない。同乗者も同様。安全な場所に避難する前に気がつかれたと焦った賊が襲撃するのを防ぐ目的。
- 交通閑散な道路であれば大通りまで出る。
 - 警備員が配置されたガソリンスタンド、商業施設等安全が確保できる場所に移動し、店の中に移動して警察、契約警備会社等に通報し支援を求める。
- ※道中で危険を感じた場合は直ちに通報。

イ 交通事故防止

- 制限速度の遵守
- 当地の道路交通法では、基本的に制限速度は街中で60キロ、高速道路では120キロとなっています。しかし、実際には高速道路では130～140キロの高速で走行する車や80キロ以下で走行する車が混在しており、ひとたび事故が起これば死亡事故に直結します。整備不良車の車も多く、制動灯、方向指示器等を点灯させない運転手も目立ちますので、車間距離を広くとり、制限速度を遵守した運転が必要です。
- 酒酔い・酒気帯び運転は違法
- 南アの交通事故原因の主な理由の一つには、酒気帯び運転が挙げられます。南ア国家警察も、交通死亡者数の増加に歯止めをかけるための対応に本腰を入れ始め、各所で検問を強化しています。酒気帯びの度合いによっては逮捕事案に発展するため、日本国内と同様、酒気帯び運転は厳禁です。

ウ 交通事故に遭遇した場合

交通事故に巻き込まれた、起こした場合は、落ち着いて処理にあたることが大切です。治安の悪い場所の場合、交通事故から別の犯罪被害に巻き込まれないよう注意が必要です。

- 直ぐに自動車を安全な場所に停車させ、負傷者の救護措置（救急車の要請）、警察への通報を行う。
- 【緊急連絡先】
- 10111 警察（日本の「110」通報と同様。但し、つながらないことがある）
- 112 （事件、事故、救急等の緊急通報に対応）
- 10177 救急（公立の救急。但し、対応が良くないことが多い）
- ※医療の救急依頼は、私立の病院の救急通報に通報するが多い。救急車の利用は公立私立とも有料。
- ER24 084-124
- NETCARE911 082-911
- 車が周囲に見あたらないのに路上に人が倒れている場合は、その場は立ち去り、最寄りの警察署又は警察に事件を通報する。
- 《治安が悪い地区での交通事故の場合》

交通事故を起こした場合、通常、直ぐに自動車を停車させ、負傷者の救護措置、警察への通報を行います。ヨハネスブルグのダウンタウン、低所得者居住地域周辺等の治安が悪い場所では、車から降りたところで運転者がリンチや強盗に遭うことがありますので、そういった虞のある場合は次の措置を取ってください。

- 群衆に囲まれて生命の危険を感じた場合は速やかに現場を離脱する。事故で車が動かない時は、周辺をよく観察の上、通行車両等に協力を求める。
- まず、最寄りの警察署で事故の申告と必要な措置の依頼、或いは、公衆電話、携帯電話で警察、救急へ連絡する。

エ その他（偽・汚職警察官の検問）

特に夜間、警察車両のように青い灯火を点滅させて停車を求めた後にカージャックをすることといった「ブルーライトギャング」や、交通違反で止めた違反者に罰金の代わりに賄賂を要求する偽・汚職警察官などが依然として存在していますので、制服警官であっても直ちに信用せず、但し、攻撃的にならず、冷静に落ち着いて対応することが大切です。

なお、検問中の警察官から停車を求められ、運転免許証が無効である、トラフィックレジストレーションを所持していない等として不適切に罰金支払いを言われた場合にも、その場では罰金を支払わず、冷静かつ大声や挑発的な態度をとらないように留意して、違反切符（Fine Ticket）を発行してもらい、後日支払う旨説明し、理解を求めるようにしてください。ただし、検問で過去に違反歴があり、罰金支払いが未納であると指摘される場合もあります。

違反切符の請求書は、郵便局から局留めで送付があったことを示す通知書が送付され、右通知書を持参して指定された郵便局で請求書を受け取り、郵便局で直接支払う場合、その場で請求書を手渡され、後日インターネット経由で支払う場合など複数の方法がありますが、違反直後に現場で現金を支払うことはないと考えてください。

エ A T M等利用時の被害

A T M等利用中に、突然背後に近づいてきたり、あるいは話しかけられ、操作方法を教える等親切を装って、暗証番号を盗み見、カードをすり取る事件が発生しています。

A T Mを利用する際は、閑散としている場所・時間帯は避け、警備員がいる銀行やショッピングモールのA T Mを利用し、暗証番号を入力する際には、手で覆い隠す等して、暗証番号を盗み見られないよう、工夫する必要があります。買い物等でクレジットカードを利用する際も同様に、暗証番号を入力する場合は手で覆い隠す等して隠してください。盗撮用の小型カメラ等がしかけられている場合があります。

また、A T M利用前には、A T Mの周りに複数で待機している等、怪しい人物がいないか等を確認し、不審なことが少しでもある場合には場所を変えて下さい。ケープタウンでの犯人グループは、身なりもよく胸に金色で「Tour Guide」とあるバッジをつけているケースも報告されていますので、他人からA T M操作時に声をかけられた場合、直ちに取引を中止し、手元のカードがあるか（盗まれていないか）確認し、その場を離れてください。

銀行によっては、カードレス現金払い出しサービスを提供しているので、このサービスを利用することも効果的です。

当地の大手スーパーマーケット（S P A R, C H E C K E R S等）では、買い物の支払い

の際、現金を出金できるサービスがあります。例）Ｒ１００の食品を購入時に、Ｒ５００の現金を出金したいとレジ係に伝え、カード（当地の銀行系）で総額Ｒ６００を支払い、食品と現金Ｒ５００を受領できる。レジ台で現金を確認してから渡すため、周囲の人にいくら出金したか周知されるため、多額の出金は控えること、現金をすぐに収納することなど注意が必要です。

4 住居及びホテルにおける安全対策

（１）住居選定の留意事項

ア 住居選択

住居を選ぶ時には：

- 安全確保を最優先し、他人に任せず、自分で物件（立地条件、家屋の形態（集合住宅か独立家屋か）、防犯上の留意点）を確認し安易に妥協しない。
- 現地（周辺）居住の在留邦人や大使館の助言を受ける（候補地域の安全性、防犯上の留意点等）
- 住居から勤務先までの通勤経路はもちろん、最寄りの警察署、病院、学校、スーパーマーケット等の位置、それらまでの経路等を考慮に入れておく。

ルートの選定には：

- 危険地域を通らなくても通勤・通学できる経路を確保できること。
- 自宅から毎日通う場所（勤務先、学校等）への安全な経路を２本以上確保できること。
- 利用ルートは二車線以上の夜間照明設備のある道が望ましい。
- 利用ルートに避難場所（警察署等）を確保できるようにしておく。

地域の選択には：

- 住居周辺の治安情勢
- 地域住民の安全に関する関心度（相互協力が可能か、防火・防犯に気を遣っているか等）
- 警察、消防、医療・救急機関等が短時間で利用できるか。
- 近所に空き家、空き地、茂み等、賊が隠れられる場所がないか。

イ 家屋の形態の違いによるメリット、デメリット

住居を選定する際、家賃との兼ね合いもありますが、独立家屋／集合住宅いずれの家屋形態にもメリット、デメリットがありますので、個々の具体的な物件についてその安全性を検討することとなります。

| 形態 | メリット | デメリット |
|------|--|---|
| 独立家屋 | <ul style="list-style-type: none"> ●納得のいく防犯体制が構築できる。 ●同一敷地内に他の住人が居住せず、知らない使用人等の出入りもない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●家賃が割高である。 ●一から防犯体制を検討する必要がある。 ●警備にかかる費用は全額自己負担となる。 |
| 集合住宅 | <ul style="list-style-type: none"> ●エレクトリックフェンス、リモート | <ul style="list-style-type: none"> ●家屋自体の防犯設備が脆弱なことが |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>ート等外周の防犯設備が最初から整っていることが多い。</p> <p>●警備員の配置がある所ではその雇用代金を他の住人とシェアできる。</p> | <p>多く、防犯設備の後付けにコストがかかる。</p> <p>●同一敷地内に他の住人の使用人、作業員等自己の管理下でない他人がいる。</p> <p>●敷地内の安全はゲート警備員の質に大きく左右される。</p> |
|--|---|--|

(2) 住居に必要な防犯設備～三つの防衛線

住居勤務先事務所等の防犯対策を考えるに当たって、敷地外周から主寝室に至るまでを三段階に分けたそれぞれの「防衛線」を設定して、それぞれに対する防犯対策を検討することが重要です。

住居等の防犯対策を検討するに当たっては、「安全な住居こそ生活の基盤」が大前提となります。

各防衛線の位置付け及びその防犯対策は次の通りです。なお、資料2の防衛線概略図をご参照ください。

第一次防衛線

敷地外周の防衛線です。独立家屋の場合は敷地境界線（塀、門等）、集合住宅の場合は、これらを含めて共通の出入口（ロビー玄関等）まで含みます。

| | | |
|------|-----|---|
| 独立家屋 | 外 塀 | <p>●高さと堅牢性を十分に確保する。</p> <p>●外塀から直接住居の2階や屋根に忍び込めない構造とする。</p> <p>●外周に照明を設置する。</p> <p>●塀の上に侵入防止設備（エレクトリックフェンス、忍び返し、鉄条網）や侵入警戒装置（赤外線ビーム）を設置する。</p> <p>●カメラ監視装置等を設置する。</p> <p>●外部から敷地内部への視界を遮断しないような構造が望ましい。</p> <p>●周囲が他の住宅に囲まれている立地が望ましい。</p> |
| | 門 扉 | <p>●リモート式でゲートが自動開閉できる。</p> <p>●非住居者が簡単に出入りできない構造である。</p> <p>●24時間の警備員が配置されアクセスコントロールを行っている。</p> |
| | 駐車場 | <p>●住宅敷地内に設置する。</p> <p>●リモコンにより扉が自動開閉できる。</p> <p>●駐車場から直接住居内へ通じる扉があり、外へ出なくとも住居内へ入ることができる。</p> <p>●駐車場で賊が身を隠せる場所をなくす。</p> <p>●駐車場に照明を設備する。</p> |
| | 庭 | <p>●庭と建物外周に照明を設備する。</p> <p>●敷地内で賊が身を隠せる場所を少なくする。</p> <p>●植栽等は十分に手入れし、常に除草を心がける。</p> |

| | | |
|-------------|-----|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ● 2階や屋根に上がる際の手助けとなるような物（梯子、脚立等）を放置しない。 ● 常に環境整備に心がけ、不審物件等があればすぐに分かるようにしておく。 |
| フラット・タウンハウス | 出入口 | <ul style="list-style-type: none"> ● 建物（敷地）内部へ非居住者が勝手に出入りできない構造とする。 ● 全ての出入口は管理人、警備員等によりコントロールされている。 ● 全ての出入口は堅牢なものとし、確実な錠前を設置する。 ● 周辺で賊が身を隠せる場所をなくす。 ● 出入口周辺に照明を設置する。 ● 来訪者を容易に確認できるようにする（インターホン、監視カメラ等）。 |
| | 駐車場 | <ul style="list-style-type: none"> ● 敷地内（外堀の内側）に設置されている。 ● 24時間体制で管理人又は警備員により管理されている。 ● 周辺で賊が身を隠せる場所をなくす。 ● 十分な照明が設備されている。 |
| コンプレックス | 外堀 | <ul style="list-style-type: none"> ● 少なくともエレクトリックフェンスの設備がある。 ● 侵入警戒装置が設備されている。 ● 十分な照明がある。 |
| | 門扉 | <ul style="list-style-type: none"> ● リモート式でゲートが自動開閉できる。 ● 非住居者が簡単に出入りできない構造である。 ● 24時間の警備員が配置されアクセスコントロールを行っている。 ● 警備員の敷地内パトロールがある所が望ましい。 |

第二次防衛線

内周の防衛線です。独立家屋の場合は家屋の外周（壁、扉、窓等）、集合住宅の場合は占有する住宅部分の外周です。

《対策》独立家屋、集合住宅共通

| | |
|----------------|---|
| 入 口 扉 （玄 関） | <ul style="list-style-type: none"> ● バーグラーパー（鉄格子枠。以下同じ）を備える。 ● 扉及び扉枠は頑丈な材質、構造とする。 ● 二つ以上の錠前とドアチェーンを付ける。 ● ドアスコープ、インターホン、監視カメラ等訪問者を確認できる手段がある。 ● 周辺に照明を設備する。 ● アラーム、センサー等侵入警戒装置を備える。 ● パニックボタンが近くにある。 |
| そ の 他 出 入 口 | <ul style="list-style-type: none"> ● バーグラーパーを備える。 ● 扉と扉枠は頑丈な材質、構造とする。 ● アラーム、センサー等の侵入警戒装置を備える。 ● パニックボタンが近くにある。 |
| 窓 | <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての窓にバーグラーパーを取り付ける。 ● バーグラーパーは十分な強度を持ち、窓ガラスの内側に取り付けるのがベター。 |

| | |
|-----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●窓と窓枠は頑丈かつ安全（ロック確実）な材質、構造とする。 ●天窓、トイレ、浴室の小窓にもバーグラバーを取り付ける。 ●アラーム、センサー等の侵入警戒装置を備える。 ●緊急脱出のため、一部の窓の補強設備は内側から開閉できるものとする。 |
| 建 物 | <ul style="list-style-type: none"> ●建物全体として侵入できない構造（屋根、床下）である。 ●アラーム、センサー等の侵入警戒装置を備える。 ●警報装置は警察又は警備会社に直結したものとし、緊急事態の際には警察又は警備員が短時間で駆けつける体制とする。 |

第三次防衛線

第二次防衛線内に設ける特別避難区域（通常主寝室等）です。「最後の砦」となるもので、警察や警備員が駆けつけてくるまでの避難場所となりますので、外部との通信手段（電話や無線機）を備えておき、緊急避難口を設けておくようにして下さい。

《対策》独立家屋、集合住宅共通

- 特別避難区域への入口は、鉄扉、鉄格子扉等、頑丈な扉を備え付け、施錠が可能なものとする。扉の場合はドアスコープを取り付けておく。
- 全ての窓にバーグラバーを付け、壁、天井、床等を十分な強度とする。
- 電話を備える。
- 電話線切断に備えて携帯電話や無線機を設置する。
- 緊急時に必要なもの、貴重品を保管する場所を設置する。
- 警察や警備会社へ通報できるパニックボタンを備えておく。
- 強力な懐中電灯を備えておく。
- 緊急脱出のため、一部窓の補強設備は内側から開閉できるものとする。

（３）住居の安全対策

ア アームド・レスポンス／アラーム・モニター契約は最低条件

深刻な治安状況と信頼性のない警察の対応から、万一の場合に警備員が駆けつけてくるアームド・レスポンス／アラーム・モニタリング・サービスを受けることは、私達が生活する上での必須条件です。警備会社によっては、オプションで、旅先等であっても南ア各地の提携警備会社と連携し、スマートフォンアプリを利用して事件/事故/病気等の緊急事態に救護に駆けつけるサービスを提供しているものもあります。自宅のみならず、出先でも支援が望めます。

イ 警備員雇用の検討

信頼性のある警備会社の警備員を２４時間配置させることによって、住居侵入防止やカージャック防止等には非常に効果があります。

ウ 鍵の管理は厳重に

どれほど塀、門扉を頑丈にしても、鍵の管理が不適切だと簡単に鍵を悪用されることになります。鍵の管理は重要です。

- 入居時、または、紛失時にはできるだけ鍵を取り替える。
- 鍵は家族の決まった人だけが持ち、使用人等には持たせない。

エ 使用人雇用は慎重に

使用人が手引きしたと見られる凶悪事件が相当数あります。家人を信用させておいてから手引きをすることが多いので、使用人は慎重に選び、雇用後も普段の行動を監視するようにしてください。また、ゲートのリモコンキーを持ったまま仕事をしている庭師が強盗犯に脅され、ゲート等を開放するよう強要されて被害にあった例もありますので、使用人に対する防犯指導、万が一の場合の対応要領を指導する必要があります。

- 基本的に性悪説に立って対処する（使用人等を信用しない。）。
- 身元の確実な者を選び、身分証明書のコピーを必ず取っておく。
- 防犯意識・感覚に対する教育を反復的、継続的に続ける（特に来訪者に対する警戒要領は徹底しておく必要がある）。
- 使用人等の友人、知人の来訪（屋内に入れることは原則禁止）、不審な行動（度重なる借金の申し出、連絡なく休むなど）には特に注意する。
- 使用人等を解雇した後は、特に「逆恨み」に注意する。

オ 外出、帰宅時も要注意

外出、帰宅時は、心の隙をつかれ、また、各防衛線が開かれるため、犯罪被害が多く発生する瞬間です。さらに、自動車による帰宅は、カージャックに遭遇する危険性の一番高い瞬間となっています。全神経を集中して周囲の警戒に当てるようにしてください。前述のカージャック、追尾強盗対策を講じてください。

カ 常に防犯チェックを

警報機器等の物的手段、警備員等の人的手段を駆使しても、これらの平素の活用が形式に流れ、緊張感が薄れて実際に機能しないということが往々にしてあります。警報機器をセットし忘れた夜に限って泥棒に入られたという例も報告されています。

- 塀や建物の外周に水道メーター、ブレーカー・ボックス、空調室外機、樹木等、賊の足場に利用される危険性のあるものはないか。
- 門扉は常に内側から施錠されているか。
- 外出の際、戸締まりやアラームのセットを厳守しているか。
- 各種防犯設備に異常、故障はないか。
- 家族はパニックボタンやアラーム機器の操作要領を熟知しているか。
- 使用人等を通じて電話番号、家人の予定等の情報が外部に漏れていないか。

（４）ホテルにおける注意事項

- チェックイン、チェックアウトの際、手続きに気をとられ、大事な手荷物を置き引き被害にあう場合があるので注意する。
- 外出する際には、貴重品はかならず施錠可能なセーフティボックスやスーツケース等に入れておき、施錠も確認する。
- ホテルが手配した車両であっても、必ず行き先の住所を確認するとともに地図などでチェックしておく。

5 犯罪（被害者・加害者）に巻き込まれた場合の対応

被害者となった場合

ださい。

★ ウェスタンユニオン (Western Union) 社 <http://www.westernunion.co.jp/jp/>

★ マネーグラム (Money Gram) 社 <http://global.moneygram.com/jp/en>

加害者となった場合

事件の加害者となったり、事件に巻き込まれたりして警察署に逮捕、拘禁された場合、日本国大使館及び総領事館では次のような援護を行いますので、日本国大使館への通報を警察官に要請してください。

【大使館が行う主な援護の内容】

- 逮捕された本人との面会・連絡
- 弁護士や通訳に係わる情報提供
- 家族との連絡の支援

Ⅲ テロ・誘拐対策

1 テロ情勢

2001年9月の米国同時多発テロ事件、米国がテロとの戦いにおいて最優先課題の一つとしてきたウサマ・ビン・ラーディンの殺害（2011年）以降、各国政府がテロ対策を強化しているにもかかわらず、ISILを含むイスラム過激派がシリア及びイラクから拡散し、世界各地でテロを敢行しており、その脅威は依然として高い状況です。

実際、アフリカに限って見ても、アルジェリアでの邦人に対するテロ事件（2013年1月）、ケニアの首都ナイロビでのショッピングモール襲撃事件（2013年9月）、日本人の死傷者も含まれたチュニジアにおける銃撃テロ事件（2015年3月）が発生しています。さらに、パリにおける同時多発テロ事件（2015年11月）、インドネシアの首都ジャカルタにおける爆弾テロ事件（2016年1月）、邦人7名が犠牲となったバングラデシュの首都ダッカにおける襲撃テロ事件（2016年7月）、2017年にはラマダン期間中の6月に多数のテロ事件（イラン、豪、英、仏、フィリピン等）が発生する等、世界の様々な地域においてテロ事件が発生しているのが現実です。

こうした中、南アでは殺人や強盗等の凶悪事件をはじめ、窃盗や置き引き等の一般犯罪発生率は高いものの、日本人・日本権益を対象とするテロの脅威は現在までのところ確認されていません。ただし、当地アメリカ大使館が昨年10月にヨハネスブルグ・サントン地区において、多くの人々が参集している場所を標的にしたテロが計画されている可能性があるとして注意を呼びかけたことを踏まえ、当国においてもテロ事案が発生しないと言い切れませんので、日頃からテロに対する注意も怠らないことが大切です。

2 一般的な心構え

（1）情報収集（テロ情勢フォロー）

世界的にテロの脅威が存在する状況ですので、日頃からテロ関連情報（報道）に注意し、最新の情報入手に努めてください。また、南アの政治、社会情勢に関心を持ち、情勢の推移を報道等でフォローするようにしてください。

（2）警戒強化

テロリストは、テロの標的として軍関係施設や主要外国政府関連施設等のハードターゲットに限らず、外国人を含む不特定多数の人が集まる場所（公共施設、レストラン、ショッピングモール、ナイトクラブ、各種祭り会場等）及び公共交通機関などソフトターゲットを対象とする傾向がありますので、利用する場合には、周囲の状況に常に注意を払い、警戒を怠らないこと、日頃から利用する施設や場所は避難する場所を予め確認しておいてください。

また、その国の祝祭日にあわせてテロ事件が発生したこともありますので、南アにとって象徴的な日には普段以上に注意を払うことも必要です。

3 具体的対応策

（1）爆弾テロ（爆発事件）対策

ア 日頃からの備え

(a) 不審物置き去りの発見を容易にするため、日頃から自宅、事務所（所属先）周辺の見回り

を強化する。

(b) 車両爆弾の被害を最小限にするためには、事務所（所属先）駐車場を社員用と外来者用とに区別し、建物から離して設ける。

(c) 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付する。

(d) 不審物を発見したら、近寄らず、触らず、警備員、警察に通報する。

イ 爆破予告への対応（鍵を握るのは最初の電話応対者／明らかに悪戯である場合を除き、本当のこととして対応する。）

(a) 予告事実を早く上司（乃至警備担当責任者）に報告する。

(b) 出来るだけ多くの情報を引き出すより、

① 何処に仕掛けたか、

② 何時爆発するか

等の必要最低限のことを聞き出し、早く避難するのが原則。

(c) 責任者は警察に通報し、爆発物の捜索を依頼する。

(d) 責任者は避難先を指示し、速やかに避難する。

(e) 居合わせたビル等に爆弾が仕掛けられた場合には、治安当局、ビル管理会社の指示に従い速やかに退避する。

ウ 万が一、爆弾テロに遭遇した場合の心構え

(a) パニックにおちいらず、冷静に行動する。群衆パニックに巻き込まれない（「将棋倒し」になる危険性があります）。

(b) 身近に爆発音を聞いたら、直ちにその場に伏せ、姿勢を低くして周囲の状況を確認し、出来るだけ頑丈な物陰に隠れる。

(c) 鞆等で頭部を保護し、出来るだけ目立たないように速やかに現場から離れる（退避用に非常口を予め確認しておく）。また、複数の爆発物が仕掛けられている可能性もあるので、2回目（以降）の爆発にも注意する。

【参考】爆発物の威力

爆発物が爆発すると単に爆発に留まらず、衝撃波による爆風効果（体内気圧の変化による肺・鼓膜の損傷）、火災を発生させる焼夷効果、爆弾本体（爆弾内部に仕掛けられた釘等）が飛び散る、或いは衝撃によるガラスが割れて被害を拡大する破片効果の3つの影響があるとされます。爆発物に対処する鉄則は、一歩でも爆発物から遠ざかることです。決して興味本位で爆発物に近づかないようにしてください。

（２）誘拐対策

犯人側は十分に時間をかけて誘拐対象者の行動を下調べした上で、計画に基づき最も犯行の成功の確率が高いと判断する一瞬を狙っています。

ア 【原則】「ターゲットにされない、用心を怠らない、行動を予知されない」

(a) 出来る限り目立たないよう振る舞う。

(b) 日頃から、職場の人間、使用人を含む南ア人に恨まれたり、憎まれたりしないよう言動に十分注意し、金銭トラブル等が発生しないよう心がける。

(c) 名前、住所、電話番号（固定、携帯とも）並びに家族構成等の情報は必要な人以外には教えない。

- (d) SNSへの投稿には十分注意する（写真や記載内容から、平素の行動パターンや人間関係など知られるおそれがある）。

イ 【予防策】

(a) スキを作らない

- ①住居の確認（→不法侵入対策にもつながります）

●戸締まりは万全か。

●家屋に構造的な欠陥がないか（ある場合は早急に修善する）。

- ②使用人への注意（週に2～3回でも雇用している場合）

家族を含めた行動パターンは全て使用人に知られており、使用人を通じて外部に情報が漏れるおそれがあることを念頭に置き、以下の諸点を指導しながら信頼できる関係を築きつつ、不必要な情報は流さないように注意する。

●固定電話がある場合の対応

こちらから名乗らせない（氏名の代わりに電話番号を伝える。例：011-123-4567）。

●家族の連絡先（携帯電話番号）、行動パターン（出勤、帰宅時間、通勤ルート等）を勝手に外部の人間に教えさせない。

(b) 慎重な訪問者（来客）対応

- ①来訪者を確認せず自宅（敷地内）に入れさせない。

→警備員を雇用している場合は警備員から来客の旨を報告させ、許可した者だけ敷地内に入れるよう指示を徹底する。その上で自宅内に入れる場合には改めて来訪者を確認する。

- ②（使用人を雇用している場合、使用人の）友人知人を勝手に自宅敷地内に入れさせない。

- ③会社（組織）の場合は、受付で来訪者氏名、来訪目的、面会者を必ず確認する。

(c) 日常行動のパターン化に注意

- ①本人及び家族の行動が簡単に予知され易い状態にないか。

- ②出退勤時間及び経路や週末の行動はパターン化していないか。

- ③子供の学校への送り迎えを自家用車で行う場合、時間帯、経路がパターン化していないか。

- ④子供だけが戸外で遊んでいたたり、一人で外出したりすることはないか。

(d) 不審な兆候を見逃さない

「誘拐の場合は兆候の発見が防止の鍵」

- ①自宅周辺や職場で不審な人物、車両を見かける等日常生活の中で普段と違ったことはないか。

- ②尾行されている、遠くから写真（ビデオ）をとられているようなことはないか。

- ③無言電話や間違い電話等不審な電話が続いていないか。

ウ 家族（特に子供）と予防策についての情報共有

子供にも必要最小限の予防策の説明をしておく。（例：見知らぬ人の誘いにのらない、外出の際には両親と常に行動を共にする（一人にさせない）等）

エ 不幸にも誘拐（疑い）事件が発生してしまった場合の留意事項

(a) 情報共有と情報管理

関係者による速やかな情報共有をはかる一方、何らかの組織に所属している場合でも、情報に接することのできる範囲を限定し、不特定多数が情報を共有することのないよう管理

を徹底する。

(b) 大使館への通報

大使館は、本人の家族や所属組織に代わって犯人側との交渉は行いませんが、第一義的に対応する南ア政府、治安当局等に対して人命第一に各種申し入れを行い、その後も事件解決まで当地関係者と連携しながら、出来る範囲での支援を行います。

(c) 人質本人や犯人側からの連絡への対応

治安当局等からの助言・指導に沿って対応することになります。また、必要に応じて、治安当局に対応のあり方を相談する。

【参考】

- 犯人からの電話を録音する。できる限り犯人側に喋らせ、犯人の声の特徴等可能な限り情報を収集する。
- 人質本人の個人情報の提供を求め、真に人質を取っている犯人かどうかを常に確認する。
- 人質本人との会話、生存の具体的証拠（Proof of Life）の提供を求め、人質本人の生存、健康状態を常に確認する。

Ⅳ 緊急事態対処

1 はじめに

南アにおいて、邦人の皆様の安全に直接影響を与えるような緊急事態（※）が発生しないとは言いきれません。まして、緊急事態がいつ、どこで、どのような形で発生するか予測がつきませんので、平時から緊急事態に備えた心構えをご家族、職場で話し合い、必要な準備を進めてください。

（※）緊急事態とは、特にテロ、暴動、クーデター、武力紛争等により治安状況が著しく悪化したと判断される事態、または現地の警察・軍による治安の維持が不可能になった事態を想定しています。

大使館では、邦人の安全を脅かすような事態の発生、或いは、そうした蓋然性が高くなったと判断される場合、正確な情報収集に努め、事実関係を確認し、必要な情報提供を迅速に行うとともに、在留邦人を含む邦人の安否確認に全力を尽くします。また、緊急事態が発生した場合、大使館では大使館内に緊急対策本部を設置し各種対応に当たります。

【参考】大使館では、安全対策に関する情報提供・意見交換等を行い、在留邦人との連絡体制を確立する目的で「安全対策連絡協議会（大使館と南ア日本人会、南ア日本商工会議所、ヨハネスブルグ日本人学校、JICA、JETRO等当地の邦人関係組織・団体の代表者で構成）」を設置しています。また、緊急時には南ア日本人会緊急連絡網に基づく情報伝達や安否確認をお願いすることを想定しています。

一方、緊急事態発生時には、大使館からの情報発信、安否確認手段には制約が生じる恐れがありますので、在留邦人の皆様におかれては、在留届を提出頂くとともに、自ら最新の情報の入手に努めていただくと共に、現在の居場所が安全かどうか、避難すべきかどうか等の判断を含め、ご家族を含めた安全確保に努めていただくようお願いいたします。また、日頃から、テロ等の事件が発生した場合に備えた緊急連絡先を把握しておき、行動要領を策定し、家族、所属先企業、組織・団体間で予め共有しておくとともに、連絡体制を確認しておくことが大切です。

このような状況下で最も大切なことは、まず、落ち着いて、皆様それぞれが自らの責任で安全を確保するよう努めることです。そこで、皆様が的確かつ迅速に対応するために必要な心構えや準備しておくべき諸点を取りまとめました。このマニュアルを参考にして頂き、緊急事態が発生した場合には落ち着いて対応できるよう心がけてください。

2 平素の心構え・準備

(1) 連絡体制の整備

ア 「在留届」の提出

大使館として、邦人が当地に在留していることを把握し、安否確認を含めて連絡を行う場合の基礎となるのが「在留届」です。在留届を提出することで当館からの**領事メール**を受信することができ、安全に係わる様々な情報を配信します。

このため南アに3ヶ月以上滞在される場合は、必ず「在留届」を提出するようお願いいたします。また、転居等に伴う住所、電話番号、携帯電話番号、メールアドレス等に変更があった場合には、届出をお願いします（ウェブサイトでの登録の際には、パスワードを忘れないように気をつけてください）。これらは外務省ホームページからインターネットで届出可能です。（なお、大使館にFAXやメール等で提出することも可能です）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>

「在留届」が出ていめんと、大使館として、緊急事態が発生した際には連絡することができません。また、住所、連絡先電話番号が古いままですと大使館から連絡が取れないことになります。変更となった場合には、忘れずに報告するようお願いいたします。また、ご家族のメールアドレスも登録して家族皆で当館からのメールを受け取れるようにしてください。

【参考】当国から第三国への渡航する場合には、「たびレジ」（外務省海外旅行登録）に登録してください！

3ヶ月未満の短期渡航者（海外旅行者、出張者）も現地での滞在予定（旅行日程、宿泊先、連絡先等）をオンライン登録できるシステムが2014年7月1日から開始されています。これにより、渡航先国・地域の最新の渡航情報（海外安全ホームページメール配信サービス）や、緊急事態発生時のメール情報、安否確認等の連絡を受けることが可能となります。大使館から発出する安全・治安に関するお知らせも送信されます。

特に組織・団体においては在留者リストを作成し、出張・休暇等で不在であることが分かっている場合を含め、在留者が分かるよう常時リストをアップデートしておくことが大切です。また、出張者を含む短期渡航者がいる場合には、短期渡航者も把握できるようにしておくことが大切です。

イ 身近な連絡方法の整備

(a) 家族間、企業を含む所属組織・団体間の連絡については、日頃から連絡先を把握しておき、緊急時の連絡が確実に行われるよう連絡網を整備しておく。

(b) 個人で滞在し、組織・団体に所属していない場合でも、近くに住んでいる方や知人・友人等と日頃からの付き合いを通じて、緊急事態が発生した際の連絡先を確保しておく。

ウ 一般回線不通時の連絡体制の整備

(a) 南アフリカでは、日常生活でも携帯電話を利用した連絡が一般的です。但し、停電や通信回線の不具合等により、携帯電話が長時間使用困難となったり、固定電話すら不通になったりすることがないとは言いきれませんので、そうした場合にどのように連絡を確保するかについては日頃から考えておくことも大切です。（例 衛星携帯、ラジオ）

(b) また、緊急連絡先は携帯電話に登録する他にメモにして常時携帯するよう心がけてください。携帯電話は電源がなくなると使用できません。

（２）緊急時の事態の把握と留意事項

緊急事態が発生した場合には、現在の居場所（自宅、勤務先、外出先等）が安全かどうか、避難すべきかどうか、避難するとすればどこに避難するのか等については、まずは、ご自身で落ち着いて判断していただかなければなりません。

その際、不用意に屋外へ出ると危険ですので、インターネット、テレビ、ラジオ等を通じて被害状況等の情報を収集しながら、常に周囲の状況に注意を払うようにしてください。無警戒に外出したり、事案が発生した場所に興味本位で近づいたりしないようにしてください。

（３）緊急事態における携行品、非常用物資の準備

（準備しておくべき品物等のチェックリストは次頁を御覧下さい。）

- ア 旅券（パスポート）、現金（ランド貨（少額な額面のものを含む）、外貨（米ドル、日本円等））、デビットカード、クレジットカード等最小限必要なものは、直ぐ持ち出せるよう用意しておく。
- イ 情勢の推移によっては、一定期間、自宅、状況によっては職場での待機が必要となる場合も想定されますので、飲料水、非常用食料、医薬品、燃料等を家族（職場においては職員）分 30 日程度目処に準備しておく。

【参考】

- 緊急事態ではなくても、流通機構が何らかの事情により麻痺した場合には、平時でも在庫が払底してしまう虞が十分あることを認識しておく必要があります。
- 南アにおいては、普段からカーナビ付きの車両での移動が多いため、ご自宅、勤務先、お子様の学校の位置関係を気にすることもないかもしれません。一方、緊急事態が発生した場合には、発生地点と現在地（自宅、職場）の位置関係、避難場所、避難経路等を検討しておく上で地図はとても大切です。GPS の活用に加え、折りたためる地図を一つ用意しておくと便利です。

<緊急事態に備えてのチェックリスト>

1 旅券（パスポート）

- ☐ 6か月以上の残存有効期間があること、査証欄頁が2頁以上あること
→6か月未満の場合には大使館で切替発給の手続きを行う。
- ☐ 旅券の最終ページの「所持人記載欄」に必要事項を記入しておく。血液型の記入も輸血が必要となった場合には役に立ちます。
- ☐ 二重国籍のお子様は、出生証明書や渡航同意書が必要になります。

2 現金及び貴重品（貴金属、預金通帳、クレジットカード等）

- ☐ ランド貨現金（家族全員が10日程度生活できる金額）
→日常生活では現金を使用せず、デビットカードで済ませている場合でも、いざというときの為に手元に置いておく
- ☐ 外貨現金（米ドル、日本円等）

3 自動車

- ☐ 常時整備しておく
- ☐ 十分な燃料の確保
- ☐ 懐中電灯、地図、ティッシュペーパー等
- ☐ 自動車を所有していない場合は、近くに住む自動車を持つ方と日頃から連絡を取り、必要な場合、同乗させてもらえるよう相談しておく

4 その他携行品

- ☐ 携帯電話及び充電器
- ☐ パソコン及び充電器
- (注) 避難した場合には、避難先で電源が確保されない、電力が安定的に継続して供給されないことも十分想定しておいてください。
- ☐ 衣類、着替え
→南アフリカにおいては夏でも日陰では涼しく、建物内ではクーラーが効いているので、長袖、長ズボンが望ましい（或いは、薄手のジャケット等羽織れるもの）。
→動きやすく、殊更人目を引くような華美ではないもの。
→冬用として防寒着
- ☐ 履物（動きやすく靴底の厚い頑丈なもの）
- ☐ 洗面用具（タオル、歯磨きセット、石鹸等）
- ☐ 非常用食糧等
→家族が当分の間（30日間程度を目安）、自宅待機する場合を想定して、米、調味料、缶詰類（及び缶切り）、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラル・ウォーター、簡易ガスコンロ等。
→自宅から他の場所へ避難する際には、この中から缶詰類、インスタント食品、粉ミルク、

ミネラル・ウォーター、大型の水筒等を携行するようにして下さい。

☐ 医薬品等

→家族用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石鹼、衛生綿、包帯、絆創膏等

☐ ラジオ（ラジオジャパン、BBC、VOA等の短波放送が受信できる電池仕様のもの。予備電池）

【参考】FM放送を受信できる携帯電話やカーステレオもありますので、ご自身が所持している携帯電話にラジオ受信機能があるかどうかを確認しておく。

☐ その他

→懐中電灯、ライター、ろうそく、マッチ、ナイフ、缶切り、紙製の食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、防災頭巾（頭をカバーできるもの）、緊急連絡先リスト（住所、電話番号）、市販されている居住地の地図等。

3 緊急時の行動

(1) 心構え

- 平静を保つ（冷静になる）
- 流言飛語に惑わされない
- 群衆心理に巻き込まれない

(2) 情勢の把握

大使館では関係当局からを含め情報収集に努め、皆様に正確かつ可能な限り迅速にお知らせいたしますが、当地各種報道機関及び海外主要報道機関（BBC、CNN等）も参考に各自情報収集に心掛けるようにしてください。

なお、当国のニュースを参考にする場合には、職場の南ア人スタッフ等の協力も得ながら情報を収集する。

(3) 大使館からの情報提供（発信）

大使館では、緊急事態が発生した場合、または発生する蓋然性が高いと判断される場合、情報収集に努め、情勢分析を行った上で、以下の手段を用いて大使館から情報を発信します。

ア 領事メール（緊急一斉通報メール）

【参考】在留届及びたびレジに登録されているメールアドレス宛に配信

イ 大使館メールマガジンを通じた大使館からのお知らせ

【参考1】事前の登録が必要。大使館HPから登録可。

【参考2】大使館メールマガジンで配信した内容は、別途、南ア日本人会、JICA、ダーバン会を通じ、会員及び関係者の方に周知してもらっています。

ウ 大使館日本語版HPへの掲載

http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html

エ 一般電話回線が使用可能で、大使館との間で構築されている「安全対策連絡協議会」の組織・団体に所属している場合には、当該組織事務局や代表者が整備している緊急電話連絡網

オ 南ア日本人会については、大使館から事務局経由でのSMS一斉通報アプリを使用した緊急連絡網登録済み携帯電話向けSMS一斉送信（但し、文字数制限あり）。

カ 一般電話回線が不通となった場合には、大使館からのFM放送、あるいはNHK海外放送（TV（ワールドプレミアム）、ラジオジャパン）

【参考】 ラジオジャパン周波数

<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radio/shortwave/area.html>

(4) 大使館への情報提供

ア 大使館への通報

緊急事態発生時には、現場の治安、被害状況等をできるだけ正確に把握できれば、大使館として、その後の対応を適切に行うことが可能となります。よって、在留邦人の皆様から寄せられる現場（付近）の情報は大変貴重ですが、ご自身の安全確保を第一に考え、身の危険を冒してまで現場に赴き、状況を確認するようなことは絶対に避けてください。

イ 大使館への速報

一方、ご自身や家族又は他の邦人の生命・身体・財産に危害が及ぶとき、又は及ぶおそれがあると考えられるときは、速やかにその具体的状況を大使館（代表 [TEL:012-452-1500](tel:012-452-1500)）に連絡するようにして下さい。

ウ 相互扶助

緊急事態が発生した際には、相互扶助が必要になる場合もあります。大使館から在留邦人の皆様に様々なお願いすることもありますので、その際は御協力をお願いいたします。

（５）退避

現南においては、深刻な緊急事態により、治安や生活環境が極度に悪化し、一時的な避難や国外を含めた退避を検討しなければならなくなる事態が発生する可能性を念頭におく必要があります。あらゆる可能性を想定して準備しておくことが必要ですので、まずは、緊急事態の形態、事態の推移等を見極めながら、自宅・職場・外出先等での待機、一時退避、国外退避の必要性を判断することになります。

領事メール登録：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

海外安全ホームページ：<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

ア 自発的な国外退避の場合の留意点

(a) 事態が悪化し、ご自身又は派遣先の会社等の判断に基づき、自発的に帰国又は第三国へ退避する場合は、その決定及び帰国（退避）者全員の氏名を大使館に通報するようお願いいたします。

(b) 大使館では、安否が確認されない邦人については、確認されるまで作業を継続しますので、ご一報頂けますと助かります。一方、退避時には大使館へ連絡する余裕もないと考えられますので、その場合は退避後で差し支えありませんので、待避先の日本大使館（総領事館）又は日本の外務省（領事局海外邦人安全課（代）（+81）3-3580-3311）に忘れずに通報するようお願いいたします。

イ 大使館が退避勧告等に関するメッセージを発出した場合の留意点

(a) 大使館が「退避勧告」や外務省から海外危険情報で「退避の可能性の検討や準備を促すメッセージ」を発出した場合、一般商用機が運航している間は、それを利用して可能な限り早急に国外に退避するようお願いいたします。

(b) 一方、臨時便を含む一般商用機の運行が停止した場合、あるいは満席で座席の留保が困難な場合には、日本政府として、チャーター機（航空機）、又は状況によっては、海上のルートを利用して退避を検討することになります。

【参考】チャーター機（航空機）の利用には、本邦乃至退避先までの片道エコノミー料金を搭乗者ご自身に支払っていただくことになります。

ウ 大使館が緊急避難先へ避難（集結）のメッセージを発出した場合の留意点

(a) 事態が切迫し、大使館から退避又は避難のための集結について指示があった場合には、緊急時避難先に集結していただくこととなります。但し、緊急時避難先は、その都度、状況に応じて決定し、ご連絡することとなりますが、プレトリアであれば日本大使館、ヨハネブルグは日本人学校などが想定されます。

(b) 退避先では、状況の推移を見ながら、しばらくの間、同退避先で待機する事態も想定されま

すので、チェックリストを参考にして非常用物資を持参するようお願いいたします。一方、緊急時にはご自身や家族の生命、身体の安全を第一に考え、携行荷物は必要最小限にするようお願いいたします。

(c) 集結場所からの国外退避ルートについては大使館で検討し、結果をお知らせすることになります。

<最後に 大使館からのお願い>

- 治安、政治的動向及びテロ情勢につき、邦人の安全に関わるような情報を入手したときは、情報の重要性について判断がつかない場合や断片的情報しか得られなかった場合でも差し支えありませんので、大使館までご連絡をお願いいたします。
- 不幸にして犯罪の被害に遭った場合には、できる限り、大使館に事件概要の報告をお願いいたします。大使館では、個人が特定されないような形で「大使館からのお知らせ」を発出し、邦人が同種事件の被害者となることを少しでも未然に防止できるよう情報を共有したいと考えています。

資料1

緊急時の連絡先一覧

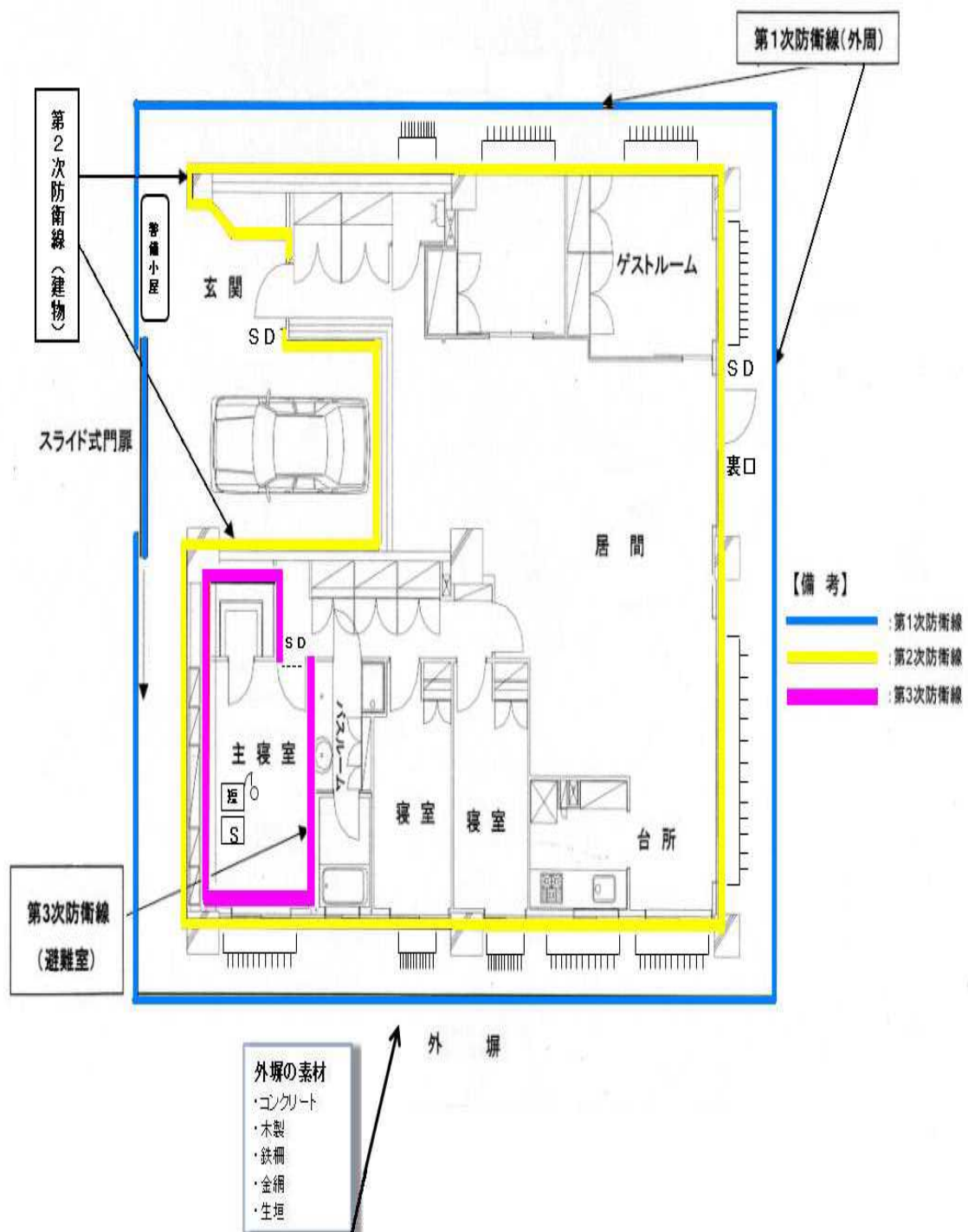
| | 電話番号 |
|----------------|--------------|
| 1 在南アフリカ日本国大使館 | 012-452-1500 |
| 2 在ケープタウン領事事務所 | 021-425-1695 |

警察～10111 救急/消防～10177（携帯電話からは「112」も使用可能）

| 警察署 | 電話番号 |
|---------------------|------------------|
| JOHANNESBURG | |
| 1 SANDTON | 011-7224200/4331 |
| 2 HONEYDEW | 011-8018400 |
| 3 EDENVALE | 011-4538563 |
| 4 SANDRINGHAN | 011-8827005/4934 |
| 5 BRIXTON | 011-8374427 |
| 6 ROSEBANK | 011-7784700 |
| 7 PARKVIEW | 011-0676000 |
| 8 LINDEN | 011-8889211/9212 |
| 9 YEOVILLE | 011-4810300 |
| 10 NORWOOD | 011-4834600 |
| 11 HILLBROW | 011-4886511 |
| PRETORIA | |
| 1 BROOKLYN | 012-3661700 |
| 2 AKASIA | 012-5640711/0728 |
| 3 GARSFONTEIN | 012-4720144 |
| 4 SUNNYSIDE | 012-4223600 |
| 5 PRETORIA CENTRAL | 012-3534233 |
| CAPE TOWN | |
| 1 CAPE TOWN CENTRAL | 021-4678078 |
| 2 SEA POINT | 021-4303700 |
| DURBAN | |
| 1 DURBAN CENTRAL | 031-3254225/4690 |
| 2 Point | 031-3674011/4012 |

| 病院 | 電話番号 |
|--|---------------------------|
| JOHANNESBURG | |
| 1 Mediclinic Morningside Hospital | 011-2825000/5126/7(ER) |
| 2 Netcare Milpark Hospital | 011-4805600/5910(ER) |
| 3 Netcare Sunninghill Hospital | 011-8061500/1652/3(ER) |
| CENTURION | |
| 1 Netcare Unitas Hospital | 012-6778000/8214(ER) |
| PRETORIA | |
| 1 Life Groenkloof Hospital | 012-4243600/4604744(ER) |
| 2 Mediclinic Kloof Hospital | 012-3674000/4452・4449(ER) |
| 3 Life Wilgers Hospital | 012-8078100/8285(ER) |
| CAPE TOWN | |
| 1 Netcare Christiaan Barnard Memorial Hospital | 021-4410000/0176(ER) |
| 2 Mediclinic Cape Town Hospital | 021-4645500/5555(ER) |
| DURBAN | |
| 1 Netcare St. Augustine's Hospital | 031-2685000/5031(ER) |
| 民間の救急車 | |
| 1 Netcare 911 Ambulance | 082-911 |
| 2 ER 24 Ambulance | 084-124 |

資料2「防衛線概略図」



資料 3

事件・事故等届出書

年 月 日

| | | | |
|--|--|--------|---------|
| 発 生 日 時 | | | |
| 発 生 場 所 (具体的に) | | | |
| 被 害 者 | 氏名 | 年 月 日 | 生 (歳) |
| | 住所 | 電話 () | |
| | 職業 | 勤務先 | |
| 事件・事故の状況 (具体的に) | 身体的被害 有 / 無 部位 | | |
| | 程度 全治 日 通院 / 入院 | | |
| | 被害品 | | |
| 警 察 の 対 応 | 警察に対する不満 有 / 無 | | |
| | 有の場合の理由 | | |
| | 担当警察官の氏名・連絡先 | | |
| そ の 他 (他の被害者、警備状況、被疑者、被害場所等に関して参考になること) | | | |
| 取扱いの希望 | <input type="checkbox"/> 秘扱いでなくてもよい <input type="checkbox"/> 個人名のみ秘 <input type="checkbox"/> 全て秘 | | |
| | | 受理者 | |

資料 4

銃乱射事件及び爆弾テロ事件に遭遇した場合の注意事項

1 銃乱射事件や爆弾テロ事件

【傾向】最小の労力で最大の被害（殺傷）を企図するため、人通りが多く容易に襲撃しやすい場所と時間帯をねらう。

【ターゲットになり易い場所】

- 構造的に人通りが多い施設 → 駅、空港、バスターミナルなどの交通施設
- 人が多数集まる施設／場所 → 大規模商業施設、観光地、寺院／礼拝所、競技場等
- 人が長時間滞留する場所 → 上記場所の他、劇場／映画館、飲食店等

【発生時間帯】

- 平日であれば朝ラッシュ時、休日であれば日中から夕方にかけての時間帯
- 各種イベント（スポーツ、演奏会、講演会等）の開催時間帯及びその前後
- その他、定期的に行われるイベント等の開催時（宗教施設における礼拝等）

2 銃乱射（Active Shooter）事件の特徴

- 殺傷力の高い自動小銃（ロシア製AK-47、米国製M-16等／射程数百m）を使用
- 事前警告なしの乱射が始まる場合があり、直前に察知することが困難
- 大量殺戮が目的のため、弾薬が尽きるまで犠牲者を探しながら乱射することが多い。
- 警察等による制圧には時間がかかる上、犯人の無力化（射殺を含む）を優先するため、負傷しても長時間放置されることが多い。

3 爆弾テロ事件の特徴

- 不特定多数の死傷者発生を企図して雑踏・繁華街に仕掛けることが多い。
- ナイトクラブや列車内等の密閉空間では少量の爆弾でも大きな殺傷効果をもたらす。
- 最初に小規模な爆発で治安機関要員を誘引し、二回目以降に大規模な爆発を起こして被害の拡大を図るケースも散見される。
※爆発直前に少量の煙を発生させ、人々の注目を集めた上で起爆した例あり。
- 爆発そのものによる被害の他、パニックに陥った避難者による将棋倒しによる圧死などの二次災害（雑踏事故）が発生しやすい。

4 基本的な注意事項 ～「危険予測」、「事前回避」、「常時警戒」

- 「いつ発生してもおかしくない」という危機意識を保持する。
→各種ニュース、口コミ情報、現場の雰囲気にも敏感になる。
- 渋滞・混雑を避け、常に非常口の場所を確認する習慣づけをする。
→人混みを避けることにより、群衆パニックに巻き込まれるリスクも軽減される。
- 万一事件に遭遇しても被害を局限化し、速やかに避難できる服装を着用する。
→ノースリーブシャツ、半ズボン、サンダル履きはリスクが高い。

- その場の雰囲気にとぐわな人物、異常に周辺を警戒する様子を見せる人物を見かけたら近づかない。
→「変だ、妙だ」という雰囲気や気配に注意する。
- レストラン等へ入る際は、オープンスペースや出入口間際、ガラス戸等の近くを避け、厨房に近い場所や柱近くの席を選ぶ。
- 不審物件を見かけたら速やかに現場を離れ（直撃を避ける）、できるだけ現場から遠ざかる（爆風、破片を避ける）。

5 銃乱射事件に関する注意事項

- 「You Tube」等であらかじめ銃器の発砲音を知っておく。
→小銃の発射音とピストルの発射音は全く異なる。連続した破裂音は危険のサイン。
※検索サイトで「You Tube、Ak-47、M-16」と入力して検索するとそれぞれの小銃の特徴を比較紹介する映像が複数表示されます。
- 発砲音が聞こえたら直ちにその場に伏せる。
→立ったままでは標的になる。伏せてから音源（襲撃者の位置）を探す。
→不用意に動くと思われ撃ちられるので、犯人の注目を引かないようにする。
- 銃乱射事件への対応はまず「逃げる」
→犯人に遭遇する可能性が低い、犯人から距離（数百m）がある場合は直ちに避難する。
- 避難する時間がない場合は「隠れる」
→犯人が容易に入ってこないように入出口を出来るだけふさぐ。
→電気を消し、カーテンを引いて内部に人がいることが分からないようにする。
→携帯電話はマナーモードにする。

6 爆弾テロ事件に関する注意事項

- 爆発音が聞こえたら直ちにその場に伏せる。出来れば爆発現場から反対側に伏せる。
→可能な限り爆風・破片を避ける。鞆等があればそれで頭部を保護する。
- 動けるようなら直ちに爆発現場から離れる。
→複数の爆発物が仕掛けられている可能性に注意する。
- 群衆パニックに巻き込まれない。将棋倒しに注意する。
→特に各種催事会場（映画館・劇場・コンサートホールやナイトクラブなどの閉鎖空間）からの脱出時には注意する。
- 万一、閉じ込められた場合は、
 - ① 鼻と口を覆い粉じんを吸い込まないようにする。
 - ② 携帯電話があれば、助けを求めるメッセージを送信し、その後は定期的に生存を伝えるメールを一定間隔で発信する。電池残量が不安なら必要時以外電源を切る。
 - ③ 救助を呼ぶ場合は、人工的な音を一定の間隔で出す（声を出すのは体力を消耗するので物を叩いて生存を知らせる）。

（了）

資料5

主要都市のホームページ及び地図

1 プレトリア

<https://www.tshwane.gov.za/>

https://e-gis002.tshwane.gov.za/tshwane_street_maps/CBD.pdf (CBD)

2 ヨハネスブルグ

<https://www.joburg.org.za/>

http://www.joburg-archive.co.za/maps/IMS_JOBURG_CBD.pdf (CBD)

3 ダーバン

<https://www.durban.gov.za/>

4 ケープタウン

<https://www.capetown.gov.za/>

<https://www.capetownccid.org/about-ccid> (CBD)

プレトリア (CBD)



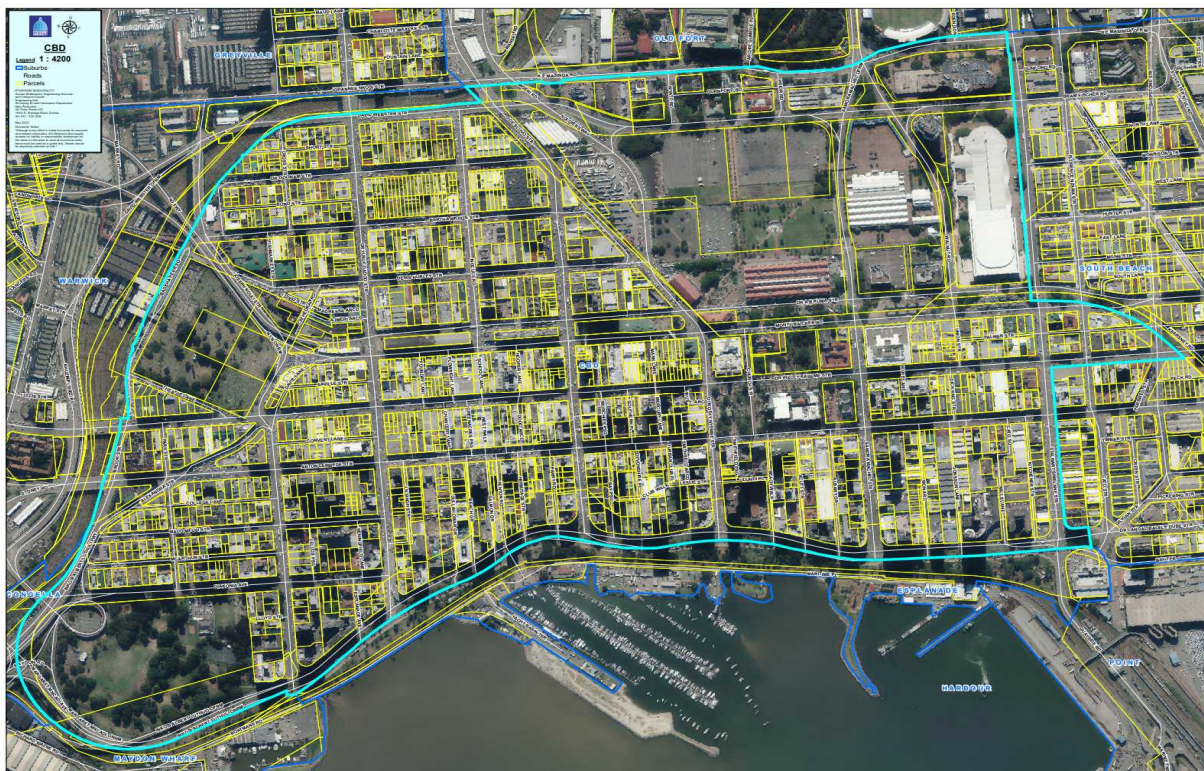
出典 : <https://www.tshwane.gov.za/>

ヨハネスブルグ (CBD)



出典：<https://www.joburg.org.za/>

ダーバン (CBD)



提供：eThekweni municipality

ケープタウン(CBD)



出典：<https://www.capetownccid.org/about-ccid>